令和８(2026)年度
日本体育大学大学院　体育学研究科
体育学専攻　博士前期課程
学生募集要項

本研究科入学試験の出願手続きはインターネット出願（以下、Web 出願という。）となります。

出願前には、マイページ登録が必要です。時間には余裕を持って出願を行ってください。

なお、Web 出願時に登録されたメールアドレスには、大学から入学試験に関する重要なお知らせが配信されますので、変更や削除の可能性がなく、日常的に確認できるメールアドレスを準備してください。

◇不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や試験実施内容等に変更が生じる場合があります。

試験実施に関する変更等については、本学のホームページにより周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

その他の入試に関する最新情報についても公表しますので、随時確認してください。

目　次

Ⅰ．体育学専攻　博士前期課程３つのポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅱ．受験要領
１．専攻・学位プログラム募集人員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
２．出願資格・・・7
３．学位プログラム及びコース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
４．入学試験日程等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
５．選抜区分及び出願要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　出願資格認定審査について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
６．出願書類・・12
　在留外国人の方・外国の学校出身の方へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
７．出願手続・・15
８．障がい等のある入学志願者の事前相談について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
９．受験票について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
10．選抜要領・・16
11．受験上の注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
12．合格発表・・17
13．入学手続・・18
14．学　　費・・19

Ⅲ．2026 年度　研究指導担当教員及び研究指導領域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
【博士前期課程】研究指導教員一覧表（研究指導補助教員を含む）・・・・・・・・・・・・・・ 36

Web 出願の流れ、出願写真に関する注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（巻末）

《各種様式・所定用紙》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（別添）
博士前期課程提出用紙
「履歴書（所定用紙 1）」、「志望理由書（所定用紙 2）」、「承諾書（所定用紙３）」、「在職証明書（所定用紙４）」、
「研究計画書（様式１）」、「競技実績概要書（所定用紙５）」、「競技指導歴概要書（所定用紙６）」、
「外国人入学願書（所定用紙７）」、「入学試験に係る事前相談について（所定用紙８）」
出願資格認定審査提出用紙
「出願資格認定審査申請書（出願資格認定審査（博士前期課程）所定用紙１）」、「申請理由等概要書（出願資格認定審査（博士前期課程）所定用紙 2-1、2-2）」、「職歴調書（出願資格認定審査（博士前期課程）所定用紙３）」、「研究歴概要書（出願資格認定審査（博士前期課程）様式 A）」、「指導歴概要書（出願資格認定審査（博士前期課程）様式 B）」、「競技実績概要書(出願資格認定審査（博士前期課程)様式 C)」

Ⅰ．体育学専攻　博士前期課程３つのポリシー

１．入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

(1)　体育科学学位プログラム

体育スポーツ科学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者･研究者、啓発者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独創的あるいは卓越した体育スポーツ科学あるいはその指導を実施するという意欲と能力をもつ者。なお、基礎英語力を有していることが望ましい。

(2)　体育実践学学位プログラム

体育学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者、政策立案者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独創的で卓越した体育スポーツの指導を実施するという意欲と能力をもつ者。なお、体育スポーツの指導者あるいは政策立案者としての経験を２年以上有し、「実践課題学期小論文」作成に対応できる現場を有していることが望ましい。

(3)　コーチング科学学位プログラム

体育スポーツ科学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者･研究者、啓発者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独創的なコーチングや卓越したコーチングを実施するScholastic Coach として活動していく意欲と能力をもつ者。なお、基礎英語力を有していることが望ましい。

(4)　コーチング実践学学位プログラム

体育スポーツ科学に関する基礎的知識があり、体育スポーツ分野の指導者･研究者、啓発者等を目指す者で、将来国内外において積極的に体育スポーツに携わるとともに、独創的なコーチングや卓越したコーチングを実施するScholastic Coach として活動していく意欲と能力をもつ者。

専門学位を志望するものは、①１年以上の体育スポーツの指導経験があり、②「実践課題学期小論文」の作成に対応できる指導現場を有する、③高度な競技力を有することが望ましい。

２．修了認定・学位に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

(1)　体育科学学位プログラム

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、修士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（体育科学）の学位を授与する。

体育スポーツ科学に関する幅広い学識
体育スポーツ科学に関する高度な専門的知識
体育スポーツの指導者としての基礎的能力
体育スポーツ科学の発展に寄与する研究者としての基礎力
国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

《養成される人材》

高度な指導能力を有する指導者、中学校・高等学校教員
スポーツ・武道・舞踊に関する高度な能力を有する中学校・高等学校教員
スポーツマネジメントに係わる高度職業人
体育・健康・スポーツに関する基礎的知識をもった高度職業人、ジャーナリストなど
体育スポーツ科学の研究者

(2)　体育実践学学位プログラム

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学した上で、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、「実践課題学期小論文」の審査に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（体

育実践学）の学位を授与する。
体育学に関する幅広い学識と研究基礎力
体育スポーツの指導者あるいはスポーツマネジメント実践者としての高度な専門的知識
体育スポーツの指導者あるいはスポーツマネジメント実践者としての実践力
国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

《養成される人材》
高度な指導能力を有する中学校・高等学校教諭、養護教諭
スポーツマネジメントに係わる高度職業人
体育・健康・スポーツに関する専門的知識を有する高度職業人、ジャーナリストなど

(3) コーチング科学学位プログラム

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、修士論文の審査および試験に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（コーチング科学）の学位を授与する。
体育スポーツ科学に関する幅広い学識
コーチング学に関する学識と専門的知識
コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力
体育スポーツ科学の発展に寄与する研究者としての基礎力
国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

《養成される人材》
高度なコーチング能力やマネジメント能力を有するスポーツ指導者
スポーツ・武道・舞踊に関する高度なコーチング能力を有する教員
競技スポーツに関する高度職業人、ジャーナリスト
コーチ育成者（Coach developer）
コーチング学の研究者

(4) コーチング実践学学位プログラム

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、実践課題学期小論文の審査に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士（コーチング実践学）の学位を授与する。
体育学に関する幅広い学識と研究基礎力
コーチング実践に関する専門的知識と技能
コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力
国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

《養成される人材》
高度なコーチング能力やマネジメント能力を有するスポーツコーチ・指導者
中学校・高等学校教員
競技スポーツに関する高度職業人、ジャーナリスト
コーチ育成者（Coach developer）

３．教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

(1) 体育科学学位プログラム

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し実施する。

① 体育学研究科共通科目（必修、10 単位）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内

容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。

② 基礎科目（選択必修、6 単位）：各コース（体育スポーツ文化社会学、スポーツマネジメント、トレーニング科学、健康スポーツ医科学、身体教育・健康教育）の学識と専門的知識、研究法を学び、基礎的能力を身につける。

③ 他コースを含む展開科目（選択、10 単位以上）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいは後期課程に進学を希望する場合は専攻コース（学領域）の専門性をより高める（縦の発展）。

④ 研究指導科目（必修、4 単位）：研究テーマに特化した研究法、学会や学術誌への発表方法などを学び、修士論文の作成に向けた研究指導を受ける。

(2) 体育実践学学位プログラム

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し実施する。

① 体育学研究科共通科目（必修、10 単位）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。

② 基礎科目（選択必修、6 単位）：スポーツマネジメントコースあるいは身体教育・健康教育学コースの学識と専門的知識、研究法を学び、基礎的能力を身につける。

③ 他コースを含む展開科目（選択、10 単位以上）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいはスポーツマネジメント、身体教育・健康教育学に関するより高度な知識や能力を身につける（縦の発展）。

④ 研究指導科目（必修、4 単位）：上述した科目を履修するとともに、修士論文に代えて、指導現場における政策や実践に関する報告等を「実践課題学期小論文」としてまとめて発表し、審査を受けるとともに、学会や学術誌への発表方法などについても学ぶ。なお、「実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の審査は原則として、Ⅰは 1 年次後学期、Ⅱは 2 年次前学期、Ⅲは 2 年次後学期の学期末に行う。

(3) コーチング科学学位プログラム

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し実施する。

① 体育学研究科共通科目（必修、10 単位）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。

② 基礎科目（選択必修、8 単位）：コーチングに関する学識と専門的知識、コーチング学の研究法を学び、コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力を身につける。

③ 他コースを含む展開科目（選択、8 単位以上）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいはコーチング学に関するより高度な知識やコーチ育成に関する能力を身につける（縦の発展）。

④ 研究指導科目（必修、4 単位）：研究テーマに特化した研究法、学会や学術誌への発表法などを学び、修士論文の作成に向けた研究指導を受ける。

(4) コーチング実践学学位プログラム

本専攻の人材養成目的を達成するため、以下のような教育課程を編成し実施する。

① 体育学研究科共通科目（必修、10 単位）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。

② 基礎科目（選択必修、8 単位）：コーチングに関する学識と専門的知識、コーチング学の研究法を学び、コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力を身につける。

③ 他コースを含む展開科目（選択、8 単位以上）：体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる（横の発展）、あるいはコーチング学に関するより高度な知識やコーチ育成に関する能力を身につける（縦の発展）。

④ 研究指導科目（必修、4 単位）：上述した科目を履修するとともに、修士論文に代えて、指導現場におけるコーチング実践報告や指導法（コーチング法）試案等を「実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ･Ⅲ」にまとめて発表し、審査を受ける。なお、審査は原則として、Ⅰは 1 年次後学期、Ⅱは 2 年次前学期、Ⅲは 2 年次後学期の学期末に行う。

４．学位プログラム別課程修了の要件・取得学位

(1) 体育科学学位プログラム、コーチング科学学位プログラム

2 年以上在学し、各学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を 30 単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

学位プログラム	取得学位
体育科学学位プログラム	修士（体育科学）
コーチング科学学位プログラム	修士（コーチング科学）

(2) 体育実践学学位プログラム、コーチング実践学学位プログラム

2 年以上在学し、各学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を 30 単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文に代わる実践の場における課題についての研究成果「実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の審査に合格すること。

学位プログラム	取得学位
体育実践学学位プログラム	修士（体育実践学）
コーチング実践学学位プログラム	修士（コーチング実践学）

５．取得可能な免許状

本学大学院を修了した者は、本学大学院入学時に取得している免許状に応じて、下記の専修免許状を取得することが可能です。

① 中学校教諭専修免許状（保健体育）
② 高等学校教諭専修免許状（保健体育）
③ 養護教諭専修免許状

Ⅱ．受験要領

１．専攻・学位プログラム募集人員

専攻	学位プログラム	募集人員	専攻定員
体育学専攻	体育科学学位プログラム	25 名 （Ⅰ期、Ⅱ期募集合せて）	37 名
	体育実践学学位プログラム		
	コーチング科学学位プログラム	12 名 （Ⅰ期、Ⅱ期募集合せて）	
	コーチング実践学学位プログラム		

２．出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

(1)大学を卒業した者又は令和 8(2026)年 3 月 31 日までに卒業見込みの者

(2)大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者又は令和 8(2026)年 3 月 31 日までに学士の学位を授与される見込みの者

(3)外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 8(2026)年 3 月 31 日までに修了見込みの者

(4)外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 8(2026)年 3 月 31 日までに修了見込みの者

(5)我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和 8(2026)年 3 月 31 日までに修了見込みの者

(6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和 8(2026)年 3 月 31 日までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者

(7)専修学校の専門課程(修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)を文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和 8(2026)年 3 月 31 日までに修了見込みの者

(8)文部科学大臣の指定した者(昭和 28 年文部省告示第 5 号)

(9)令和 8(2026)年 3 月 31 日で大学に 3 年以上在学し、優れた成績で所定の単位を修得したものと、本学大学院が認めた者

(10)本学大学院において行う個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者で、入学時までに 22 歳に達する者

※重要：出願資格(9)(10)の該当者は、事前に出願資格認定審査が必要です。11 頁で確認し手続きをしてください。出願資格認定審査の申請をして、審査の結果、出願資格が認定された者は本研究科の入学試験に出願することができます。

３．学位プログラム及びコース

学位プログラム	コース	学位プログラム・コース記号
（体科） 体育科学学位プログラム	体育スポーツ文化社会学コース	（体科・スポ文社）
	スポーツマネジメントコース	（体科・スポマネ）
	トレーニング科学コース	（体科・トレ科学）
	健康スポーツ医科学コース	（体科・健康医科）
	身体教育・健康教育コース	（体科・身体健康）
（体実） 体育実践学学位プログラム	スポーツマネジメントコース	（体実・スポマネ）
	身体教育・健康教育コース	（体実・身体健康）
（コ科学） コーチング科学学位プログラム		（コ科学）
（コ実践） コーチング実践学学位プログラム		（コ実践）

４．入学試験日程等

出　願　期　間 （Web 出願登録、 出願書類受付期間）	Ⅰ期試験	Ⅱ期試験
	2025 年 10 月 3 日(金)～ 2025 年 10 月 10 日(金)	2025 年 12 月 22 日(月)～ 2026 年 1 月 9 日(金)
試　　験　　日	2025 年 11 月 8 日(土)	2026 年 2 月 7 日(土)
合 格 発 表 日	2025 年 11 月 14 日(金)	2026 年 2 月 13 日(金)
入学手続締切日	2025 年 11 月 28 日(金)	2026 年 2 月 27 日(金)

５．選抜区分及び出願要件

選抜区分	対象学位プログラム・コース	出願要件
一般選抜	（全学位プログラム）	「２.出願資格」に該当する者
スポーツ選抜	（全学位プログラム）	「２.出願資格」に該当し、次の①、②のいずれかに該当する者 ①競技実績で出願する者 別表 A の出願基準を満たしている者 但し、年齢制限のあるユース大会等の場合、大会出場時の年齢が満 18 歳以上であったこと ②指導実績で出願する者 ※（コ科学）（コ実践）のみ対象となります。 別表 A 内の大会に該当する運動競技の指導歴を有する者 但し、学生コーチは除く
社会人選抜	（体科） （体実）	「２.出願資格」に該当し、次の①、②のいずれかに該当する者 ①入学時にまでに常勤・非常勤を問わず 1 年以上の社会的経験(企業・官公庁・教育関係機関等での就業。家事従事等の経験を含む。)を有する者(見込み含む) ②別表 B に該当する JICA が行う海外協力隊事業の隊員として体育・スポーツの指導に関わる社会貢献活動の経験を入学時に原則として 1 年以上を有する者 ※注意：本学研究科の授業は通常の時間割編成であり、社会人専用の時間割編成はしていません。
	（コ科学） （コ実践）	「２.出願資格」に該当し、次の①、②のいずれかに該当する者 ①入学時までに常勤・非常勤を問わず 1 年以上の社会的経験(企業・官公庁・教育関係機関等での就業。家事従事等の経験を含む。)を有する者(見込み含む) ②別表 B に該当する JICA が行う海外協力隊事業の隊員として体育・スポーツの指導に関わる社会貢献活動の経験を入学時に原則として 1 年以上を有する者 ※注意：本学研究科の授業は通常の時間割編成であり、社会人専用の時間割編成はしていません。
外国人選抜	（全学位プログラム）	わが国における「留学」の在留資格を有する者又は本研究科入学までに資格を取得する予定の者で「２.出願資格(3)、(4)、(5)、(6)」のいずれかに該当し、日本国籍を有しない者 ※注意：入学試験ならびに本研究科の授業は、原則日本語で行います。

※出願資格(9)、(10)の該当者は、事前に出願資格認定審査の申請をして、審査の結果、出願資格が認定された場合に**一般選抜**で出願することができます。

別表 A

大会	成績基準
(a)夏季・冬季オリンピック大会 (b)夏季・冬季パラリンピック大会 (c)ワールドカップ大会(シニア大会) (d)世界選手権大会(シニア大会)	いずれかの大会において、国を代表する正規選手※1として出場実績のある者
(e)ユニバーシアード競技大会 (f)FISU ワールドユニバーシティゲームズ （※旧ユニバーシアード競技大会) (g)ワールドカップ大会(年齢制限あり) (h)世界選手権大会(年齢制限あり) (i)アジア競技大会	いずれかの大会において、国を代表する正規選手※1として出場し、8 位入賞以上の競技実績をもつ者
日本選手権大会	正規選手※1 として出場し、8 位入賞以上の競技実績をもつ者
日本学生(大学)選手権大会	正規選手※1 として出場し、4 位入賞以上の競技実績をもつ者
各種競技大学リーグ	正規選手※1 として出場し、優勝または準優勝の競技実績をもつ者、または主催する団体から個人に与えられる表彰を得た者
各種プロスポーツ　※2	プロスポーツのトップリーグ等で、優秀な実績のある者

※1「正規選手」とは、成績基準を満たした大会に出場したレギュラー選手であり、補欠(サブ)選手は含まれない。
※2「各種プロスポーツ」とは、上記表に記載された大会に関連する競技（種目）を対象とする。
(重要) 別表 A に記載された内容は、スポーツ選抜区分の出願資格に関する基準であり、合否基準ではありません。

別表 B

（1）青年海外協力隊　（2）日系社会青年協力隊　（3）シニア海外協力隊　（4）日系社会シニア協力隊

≪出願資格認定審査について≫

本学大学院研究科では、「学校教育施行規則第 155 条第 1 項第 8 号の規定」により、前記「出願資格（9)、(10)」に該当する出願資格認定対象となる方について、出願資格の有無を判定するために予備審査を行います。

「出願資格認定審査」は、入学試験ではありませんので注意してください。

１）. 出願資格認定審査の対象となる者

① 「 2. 出願資格（9)」で出願資格認定審査の対象となる場合

前記「2. 出願資格（9)」に記載された条件を満たしている者

② 「 2. 出願資格（10)」で出願資格認定審査の対象となる場合

以下のいずれかに該当する者

(1) 高等学校を卒業した者

(2) 短期大学を卒業した者

(3) 高等専門学校を卒業した者

(4) 専門学校を修了した者で、次の基準を満たす者

A. 修業年限が 2 年以上で、かつ修了に必要な総授業時数が 1700 時間（62 単位）以上課程を修了した者

B. 学校教育法に規定する大学入学資格（高等学校卒業など）を有する者

(5) 各種学校を卒業した者

２）. 出願資格認定審査が不要な者

① 「2. 出願資格（1） から（8)」に該当する者

※（7）に該当する方（注）の場合、文部科学省 WEB サイトで公開されている「文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧」に掲載されている学校を、同表が課程ごとに示す「文部科学大臣が定める日」以後に修了している場合に限り入学資格審査は不要です。

（注)・高度専門士の保持者　・修業年限が 4 年以上　・総授業時間数が 3,400 時間（124 単位）以上

３）. 出願資格認定審査要領

審査を希望する方は、必ず大学院教学センターまで事前相談を済ませた上で申請願います。

出願資格認定審査には、下記書類の提出が必要になります。提出期限等を確認の上、お早目にご準備ください。

事前相談を済ませていない場合は申請できません。また、上記条件を満たした方すべてに受験資格が認められるとは限りませんので注意してください。

※出願資格認定審査に提出した書類内容に虚偽が発生した場合は、入学試験に合格した場合でも合格の取り消しとなりますので注意願います。

・提出書類　※は必要に応じて提出

出願資格（9）

① 出願資格認定審査申請書（出願資格認定審査（博士前期課程）　所定用紙 1）

② 申請理由等概要書（出願資格認定審査（博士前期課程）　所定用紙 2-1・2-2）

③ 卒業(見込)証明書(最終学歴のもの)

④ 学業成績証明書

⑤ 受験承諾書（学長又は学部長が発行するもの：様式任意）

⑥ 研究歴概要書（出願資格認定審査（博士前期課程）様式 A）※

出願資格（10）

① 出願資格認定審査申請書（出願資格認定審査（博士前期課程）所定用紙 1）

② 申請理由等概要書（出願資格認定審査（博士前期課程）所定用紙 2-1・2-2）

③ 卒業（見込）証明書（最終学歴のもの）

④ 学業成績証明書（最終学歴のもの）

⑤ 職歴調書（出願資格認定審査（博士前期課程）所定用紙 3）※

⑥ 研究歴概要書（出願資格認定審査（博士前期課程）様式 A）※

⑦ 指導歴概要書（出願資格認定審査(博士前期課程)様式 B）※
⑧ 競技実績概要書（出願資格認定審査（博士前期課程）様式 C）※

・提出方法
封筒に、「出願資格認定審査書類在中」と朱書きし、必ず「**速達・特定記録郵便**」で必要な書類を郵送してください。
（「特定記録郵便物等受領証」を保管しておいてください。）

・送付先　〒158-8508　東京都世田谷区深沢７－１－１　日本体育大学 大学院教学センター

・書類提出期限（郵送のみ）
Ⅰ期試験：2025 年 9 月 5 日（金）必着
Ⅱ期試験：2025 年 12 月 1 日（月）必着

・審査結果　Ⅰ期：2025 年 9 月 12 日、Ⅱ期：2025 年 12 月 12 日　登録されたメールアドレスにお知らせします。

６．出願書類

●：全員提出　△：該当者のみ提出

（注意：提出書類について） 提出書類のサイズは全て「A4 サイズ：片面印刷」で提出してください。		提出該当者			
出願書類	連絡事項・注意事項	一般選抜	スポーツ選抜	社会人選抜	外国人選抜
(1)志願票・写真票	Web 出願完了後、Web 出願サイトより印刷してください。 余白および志願票・写真票は切り離してください。	●	●	●	●
(2)履歴書（所定用紙 1）	「学歴」欄は高等学校から記入してください。但し、外国の学校教育を受けたことがある者は小学校から記入してください。 大学、研究所等で研究生等として研究歴がある場合は、その期間も記入してください。 「職歴」欄は勤務していた全ての職を年月順に記入してください。社会貢献活動の経験はこの欄に記入してください。	●	●	●	●
(3)志望理由書 （所定用紙 2）	必ず希望する研究指導教員と履修・研究等について相談し、指導の同意を得てください。 ・「2026 年度研究指導担当教員及び研究指導領域」、「[博士前期課程] 研究指導教員一覧表(研究指導補助教員を含む)」参照。	●	●	●	●
(4)学業成績証明書	出身大学長が作成し、厳封したもの。	●	●	●	●
(5)卒業(見込)証明書	出身大学長が作成し、厳封したもの。 ※出願資格に関わるもの	●	●	●	●
(6)承諾書（所定用紙 3）	入学後に在職予定の者は、雇用責任者または代表者の承諾書を提出してください。	△	△	△	△

(7)在職証明書または 派遣証明書（所定用紙 4） ※所定用紙と同内容であれば、所属機関が発行したものでも可。	○全学位プログラム 【社会人選抜】で出願する者 出願要件を満たすことを証明できる在職証明書または派遣証明書を提出ください。但し、ご事情により在職証明書が提出できない場合は、第 3 者の証明による書面等をご提出頂くことでも構いません。在職証明書以外の第 3 者の証明による書面は、例えばハローワークで発行される雇用保険受給資格者証や、勤務先における健康保険証に記載の雇用開始日（資格取得年月日）により期間を確認することができますので、こちらのコピーを在職証明書の代わりに提出することも可能とします。			●	
(8)研究計画書 （様式 1 ）	和文 2,000 字程度、A4 用紙片面使用、枚数制限なし。	●	●	●	●
(9)競技実績概要書 (所定用紙 5)	○全学位プログラム 【スポーツ選抜：競技実績】で出願する者 ※競技実績を立証できる書類も提出すること		△ ※		
(10)競技指導歴概要書 (所定用紙 6)	○コーチング科学学位プログラム、または コーチング実践学学位プログラム 【スポーツ選抜：指導実績】で出願する者 ※指導歴を立証できる書類も提出すること		△ ※		
	○全学位プログラム 【社会人選抜：②の該当者】で出願する者 ※指導歴を立証できる書類も提出すること			△ ※	
(11)外国籍を有する者の出願書類	外国籍を有する者は、出願書類の他に、以下の書類を提出してください。 現に日本国内に在住し、在留資格が「特別永住者」、「永住者」の者は①住民票の写しまたは住民票記載事項証明書のみ提出。 ①住民票の写しまたは住民票記載事項証明書（3 か月以内に発行されたもので、国籍、在留資格、在留期間を明記したもの） ②在留カードの写し ③外国人入学願書（所定用紙 7 ） ④日本語能力を証明する書類 日本留学試験（EJU）の成績証明書(日本語科目の読解、聴解・聴読解 240 点以上、記述 30 点以上)、または日本語能力試験（JLPT）**N1** の合格証明書 ⑤パスポートの氏名・生年月日が記載されたページのコピー（海外在住者）	△	△	△	●

在留外国人の方・外国の学校出身の方へ

★ 在留外国人の方は、必ず確認してください。

最終学歴の各種証明書について

日本国外（中国を除く）の大学・大学院を卒業・修了した方

卒業・修了証明書等に取得学位の記載がない場合には、学位取得証明書も提出してください。

中国の学校を卒業または修了した方は、「中国の学校を卒業・修了された方へ」に記載されている通りに書類を提出してください。

最終学歴の各種証明書は、原則として日本語または英語で表記された原本に限ります。

日本語または英語以外の言語で表記されている場合は以下の書類を提出してください。

各種証明書の原本※	出身学校から発行されたもの。 出身学校から 1 部しか発行されない場合は、公的機関が発行する Certified true copy でも構いません。
日本語または英語翻訳文※	大使館や自国公証処等の公的機関で認証を受けたものに限る。

※日本語教育機関（日本語学校等）が発行・認証するものは認めません。

中国の学校を卒業・修了された方

中国の学校を卒業・修了された方は、以下の書類を提出してください。

証明書類の入手に時間を要することが想定されます（申請から発行まで 5 週間程度かかる場合もあります）ので、早めに準備をしてください。

（1）卒業証書・卒業証明書「学歴認証書」(Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate を提出する場合は下記の注意をよく読んで手続きしてください。

（2）成績証明書 「成績認証書」(Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

※1 Online Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript を提出する場合は下記の注意事項をよく読んで手続きしてください。

（3）学位取得証明書「学位認証書」(Verification Report of China Higher Education Degree Certificate)

CHSI（中国高等教育学生信息網）が発行し、英文で記載されたもの。

博士前期課程を受験する方は、学士学位（Bachelor's Degree）を取得していることが証明されていること。

※ 1 Online Verification Report of China Higher Education Degree Certificate を提出する場合は下記の注意をよく読んで手続きしてください。

学歴、成績、学位の認証書は CHSI 中国高等教育学生信息網（ https://www.chsi.com.cn/en/pvr/ ）が取り扱っています。日本国内では CHSI 日本代理機構（ http://www.chsi.jp/ ）での発行申請が可能です。

※ 1 電子データの認証書を提出する場合は、出願期間内に CSSD 教育部学生服务与素质发展中心から直接、日本体育大学大学院教学センター（ daigakuin@nittai.ac.jp ）に電子メールで送信されるように申請してください。

志願者による電子メールの転送は出願書類として認めません。出願期間を過ぎた場合は出願を受理しないことがありますので、気をつけて手続きしてください。

７．出願手続

「Web 出願の流れ」を確認して手続きしてください。出願は Web 出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

Web 出願は 24 時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日 23 時まで、入学検定料の支払いは出願締切日まで（営業時間はコンビニエンスストアや ATM など、施設によって異なります)、必要書類の郵送は出願期間内消印有効です。

（１）入学検定料の支払い

入学検定料：１受験につき３５，０００円

Web 出願サイト「STEP 5 （入学検定料の支払い)」に従って支払手続きをしてください。

（２）必要書類の郵送

Web 出願完了後に、Web 出願サイトより宛名シートを印刷し、貼付した角 2 封筒に提出書類を封入して、「速達・特定記録郵便」で郵送してください。なお、窓口出願は行っておりません。(「特定記録郵便物等受領証」を保管しておいてください。）詳細については、「STEP 6 （必要書類の郵送)」を確認すること。

①志願票・写真票

入学検定料支払後、出力可能となります。A4 サイズで印刷し、切り取り線に沿って切り取ってください。

②選抜毎の提出書類

詳細は、各選抜の提出書類を確認してください。

◎注意事項

① 不備のある出願書類や出願締切日後に到着した出願書類は一切受け付けません。

② 一度提出した出願書類及び支払われた入学検定料は一切返還しません。

【入学検定料の返還請求（払込手数料を除く）ができる場合】

・入学検定料を支払ったが、本学に出願書類を発送しなかった。または出願書類が受理されなかった。

・入学検定料を誤って二重に支払った。

③ 提出書類の内容に虚偽があった場合は、出願や合格を取り消すことがあります。

８．障がい等のある入学志願者の事前相談について

本学に入学を志願する方で、けが及び障がいのために受験上の配慮を必要とする方は、出願の前に、必ず事前相談をしてください。出願の際には下記の書類が必要となりますので、予めご了承願います。なお、重度の障害のある方は、できる限り早い時期にご相談ください。

《事前相談の方法》

事前相談の申請は、「申請書類」の「入学試験に係る事前相談について」を作成の上、医師の診断書などの必要な書類を添付して提出してください。

※ 提供いただいた個人情報は、支援内容検討のために関係部署と共有します。必要な書類に不明な点がある場合は、提出前に大学院教学センターに確認してください。

申請書類

1．「入学試験に係る事前相談について」(所定用紙８）

2．医師の診断書（原本又は写し）

3．障害者手帳（氏名・障がい名の頁の写し） （所持者は提出してください。）

4．その他相談する際に必要と考えられる参考資料

９．受験票について

出願書類到着後、Web 出願の登録内容をもとに本学が作成し、Web 出願サイトよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください。(「STEP 7 （受験票の印刷)」を参照）

※ 受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスへメールで通知します。

※ 試験 3 日前までに Web 出願サイト上に受験票が確認できない場合、大学院教学センターまで連絡してください。

１０．選抜要領

合否の基準は、選抜区分ごとに設定されます。

〔試験実施日〕

Ⅰ期試験：2025 年 11 月 8 日（土） 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟
Ⅱ期試験：2026 年 2 月 7 日（土） 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟

① 体育科学学位プログラム　② 体育実践学学位プログラム
③ コーチング科学学位プログラム　④ コーチング実践学学位プログラム

選抜区分	受付時間	試験時間	試験科目	内容・留意事項等
一 般 選 抜	8:30～9:00	9:30～10:30	専門科目 （60 分）	**（①②両学位プログラム共通）** 出題された 5 問題から 2 問題を解答する。
				（③④両学位プログラム共通） 出題された 2 問題を全問解答する。
		11:00～12:00	英語 （60 分）	**（①②③④全学位プログラム共通）** 英文読解 出題された 3 問を全問解答する。 ※ 語学辞書の使用可(「11. 受験上の注意」参照)
		12:20～	口述試験	**（①②両学位プログラム共通）** 1）コース毎に実施する。 2）卒業論文及び研究計画を中心に日本語で行う。
				（③④両学位プログラム共通） 卒業論文及び研究計画を中心に日本語で行う。
スポーツ選抜 社会人選抜	8:30～9:00	9:30～10:30	専門科目 （60 分）	一般選抜に同じ
		11:00～	口述試験	一般選抜に同じ
外 国 人 選 抜	8:30～9:00	9:30～10:30	専門科目 （60 分）	一般選抜に同じ ※ 解答は日本語に限る
		11:00～	口述試験	**（①②両学位プログラム共通）** 1)専門分野 卒業論文及び研究計画を中心に 原則日本語で行う。 2)日本語能力 出願コースに関する基本的な内容に沿って日本語で口頭試問を行う。 **（③④両学位プログラム共通）** 1)専門分野 卒業論文及び研究計画を中心に 原則日本語で行う。 2)日本語能力 コーチングに関する基本的な内容に沿って日本語で口頭試問を行う。

１１．受験上の注意

（１）試験当日の注意事項

① 持参するものについて
「受験票」、「筆記用具」、「時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く)」、「昼食・飲み物」（任意）
※受験票を紛失または忘れた場合は、試験当日、受付に申し出てください。

② 受付で受験票を提示してください。受付後は、速やかに指定された試験場へ入室してください。また、受付後に担当者の許可無くキャンパス内を出歩くことはできません。なお、試験終了までキャンパス内から出ることはできません。

③ 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等の電子機器類は試験場に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切り、すべての試験が終了するまでかばん等にしまってください。これらをかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていると不正行為となることがあります。

④ 車での来学はできません。公共交通機関をご利用ください。
試験前日までに可能な限り試験場までの道順、所要時間等を実際に確認しておいてください。

⑤ 試験開始後 30 分を超えた遅刻は認めません。

⑥ 公共交通機関の事故等により、受付時間に間に合わない場合は、直ちに大学院教学センター（03-5706-0915）へ連絡するとともに、交通機関において遅延証明書の交付を受けてください。

⑦インフルエンザ等の感染症にかかり治癒していない者は、他の受験生に感染するおそれがあるため受験はできません。試験当日の体調管理については十分に注意してください。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験などの措置、入学検定料の返還は行いません。

（２）試験時間中の注意事項

①「受験票」は、試験担当者が見やすいように机上に置いてください。

②「受験票」の他に試験時間中、机上に置けるものは、以下とします。

- 黒鉛筆（HB)、シャープペンシル（HB）
- 鉛筆キャップ
- プラスチック製消しゴム
- 鉛筆削り（電動式・ナイフ類を除く）
- 時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものを除く）
- 眼鏡
- ハンカチ
- ティッシュペーパー（袋または箱から取り出した紙のみであること）
- 目薬

※ 英語試験時に限り、語学辞書の使用が可能です。なお、英語試験時に使用可能な辞書とは、「英和辞書」、「中日辞書」、「韓日辞書」等の語学辞書に限ります。電子辞書、電子手帳等は使用できません。また、医学等専門用語の語学辞書は使用できません。（付箋等は予め取り除いてください。）

③「耳せん」は、試験担当者の指示等が聞き取れないことがありますので、試験場内では使用できません。

④ 試験時間中に退室はできません。体調不良またはトイレ等やむを得ない場合には、手を挙げて試験担当者の指示に従ってください。但し、一時退室が認められた場合でも、一時退室した間の試験時間の延長はできません。また、別室での受験もできません。

⑤ 試験時間中は、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為となることがあります。

１２．合格発表

Ⅰ期試験（11 月実施）：2025 年 11 月 14 日（金）10 時

Ⅱ期試験（ 2 月実施）：2026 年　2 月 13 日（金）10 時

合格発表は合格者のみ通知します。学内掲示は行いません。本学の正式な合格発表は、合格発表日に合格証明書等の発送をもって行いますが、受験生の便宜を考慮し、「合否照会システム（インターネット）」による合否案内を行います。

なお、不合格通知書は送付いたしません。また、本学に直接連絡をしても合否に関わるお問い合わせは一切受け付けま

せんので下記照会方法をご確認ください。

（１）利用方法・注意点

① インターネット、スマートフォン及び携帯電話で利用できます。
② 合否照会について、「誤操作」及び「見間違い」を理由とした、入学手続期間終了後の入学手続は認めません。
③ 合否発表当日は混雑のため回線がつながりにくいことがあります。その場合は、少し時間をおいてアクセスしてください。
④ 合否照会システムの利用期間は次のとおりです。

合否照会システム利用期間		
Ⅰ期試験	2025 年 11 月 14 日（金）～ 2025 年 11 月 28 日（金）	初日 10：00 ～
Ⅱ期試験	2026 年 2 月 13 日（金）～ 2026 年 2 月 27 日（金）	最終日 23：59 まで

（２）インターネット（携帯電話・パソコン）での照会

https://www.gouhi.com/nittai/

合否照会システム利用期間内に上記アドレスへアクセスし、画面の指示に従って操作してください。
また、本学ホームページ（https://www.nittai.ac.jp/）より、上記アドレスへアクセスできますのでご利用ください。

１３．入学手続

（１）入学手続時納入金の手続締切日

Ⅰ期試験：2025 年 11 月 28 日（金）
Ⅱ期試験：2026 年 2 月 27 日（金）

① 入学手続時納入金は、合格証明書に同封されている所定の「振込用紙」を使用し、手続締切日までに金融機関窓口で手続を行ってください。
② 合格者で手続締切日までに入学手続時納入金が未納だった場合は、入学辞退とみなしますので注意してください。
③ 振込金受領書（本人保存）は、入学手続をした証明になりますので大切に保管してください。

（２）入学辞退について

【窓口】 2026 年 3 月 31 日（火） 17：00 まで
【郵送】 2026 年 3 月 31 日（火） 消印有効（速達・簡易書留としてください。）
入学手続時納入金を振込み後、入学を辞退する場合は、上記期限までに入学辞退届（所定用紙）を提出してください。
入学金を除く納入金を返還します。なお、返還には期間を要しますので、早急に手続きをしてください。

○提出先：日本体育大学 大学院教学センター
〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7－1－1
TEL 03-5706-0915
事務取扱時間：平日 8:30 ～ 17:00
冬季一斉休業期間：2025 年 12 月 27 日（土）～ 2026 年 1 月 5 日（月）

１４．学　　費

授業料は全額の 1/2 相当額を後学期に分納することができます。その場合、入学手続時の納入金額は、入学金・授業料（前学期分納分）・健康管理費・学友会費・同窓会準会員費の合計金額となります。後学期は授業料（後学期分納分）のみとなります。

2026 年度 日本体育大学大学院体育学研究科　博士前期課程学費等一覧　　（円）

費　目		納入期		金　額	
				日本体育大学以外の卒業生	日本体育大学卒業生
①学　費	入学金	入学時のみ		300,000	150,000
	授業料	分納可	前学期	369,000	369,000
			後学期	369,000	369,000
	健康管理費	前学期		10,000	10,000
②その他費用	学友会費	前学期		13,000 （入会金 1,000 円を含む）	12,000
	同窓会 準会員費	入学時のみ		10,000	0
総合計（①+②）		年　　額		1,071,000	910,000
		分納の場合	前学期	702,000	541,000
			後学期	369,000	369,000

※ 日本学生支援機構貸与奨学金「授業料後払い制度」があります。制度の利用を希望する方は、事前に大学院教学センターまでお問い合わせください。

※　博士前期課程は厚生労働省の「教育訓練給付制度（一般教育訓練）」給付金対象講座です。

《寄付金について》

本学では、教育研究環境充実のため、寄付金を募集する場合があります。
但し、いずれも応募は任意で、入学前には募集いたしません。

●「国の教育ローン」（教育貸し付け）について

「国の教育ローン」は、「家庭の経済的負担の軽減」、「教育の機会均等」という目的のために昭和 54 年に創設された公的な融資制度です。民間金融機関の補完を旨とする政策金融機関である日本政策金融公庫（日本公庫）が扱っています。

詳しくは教育ローンコールセンター 0570-008656（03-5321-8656）、または「国の教育ローン」で検索、https://www.jfc.go.jp/から「国の教育ローン」を選択してください。

Ⅲ．2026 年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

体育学専攻　博士前期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】
出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員、または研究指導補助教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願する事がないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）	研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）

■体育科学学位プログラム、体育実践学学位プログラム（コース毎）
（体育スポーツ文化社会学コース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授　石井　隆憲 博士（社会学）	研究分野： 社会科学、総合人文社会
	研究内容のキーワード：スポーツ人類学、民族スポーツ、伝統スポーツ、東南アジア、ミャンマー、チンロン、伝承、科学人類学
	スポーツ人類学 スポーツ人類学は地球上のさまざまな社会において実践されているスポーツ的活動を参与観察などの緻密なフィールドワークによって研究していく学問です。研究領域は多岐にわたりますが、具体的にいくつかの研究領域を以下に紹介しておきます。 ① スポーツ活動を実践する人々の研究 ・身体技法研究 ・ライフヒストリー研究 ・エスノサイエンス研究　など ② スポーツ活動を支える人々や組織の研究 ・スポーツ組織や社会組織の研究 ・ネットワーク研究 ・スポーツ用具に関する研究　など ③ スポーツの観光化の研究 ④ スポーツの開発・援助の研究 ⑤ 植民地主義とスポーツ文化の研究 ⑥ スポーツ科学の人類学　など
★★ 教授　荻　　浩三 修士（体育学）	研究分野：スポーツ史
	研究内容のキーワード：スポーツ史、体育史、スポーツ地理学
	「スポーツ史」 ① 一般研究領域（一般史） 「スポーツ通史」「世界スポーツ史」「時代別スポーツ史」「地域別スポーツ史」、など ② 個別研究領域（特殊史） 「スポーツ競技種目史」「スポーツ思想・人物史」「スポーツ教育史」「スポーツ産業史」「スポーツ形態史」「スポーツ学説史」「スポーツ施設・用具史」「スポーツ技術史」、など

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　佐野　昌行 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ社会科学 研究内容のキーワード：スポーツ経営学、スポーツマネジメント、スポーツビジネス スポーツ文化の視点から、スポーツのマネジメント、スポーツの経営、またスポーツ経営学の概念や学説史について研究します。 以下のような様々な主体による「スポーツ（事業）のマネジメント」が研究対象として考えられます。 ・地域スポーツクラブ　・スポーツ施設　・プロスポーツクラブ　・プロスポーツ選手　・スポーツイベント　・スポーツ団体（競技団体、競技の普及を含む）　・スポーツ関連企業　・大学スポーツ　など。
★★ 教授　関根　正美 博士（体育科学）	研究分野：体育・スポーツ哲学 研究内容のキーワード：体育・スポーツ哲学 スポーツ哲学、体育哲学、スポーツ倫理学 ① オリンピックの思想　② スポーツ指導者論　③ スポーツと暴力　④ スポーツ美学論、舞踊論　⑤ ドーピング、フェアプレイ　⑥ 科学技術とスポーツなど。
★★ 教授　波多腰　克晃 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ哲学、体育哲学、スポーツ倫理 研究内容のキーワード：体育・スポーツ思想・哲学、スポーツと共同体 体育・スポーツにおける共同体の形成について研究しています。 ドイツのスポーツクラブ研究、スポーツの文化研究、スポーツと大衆化論、スポーツと暴力、オリンピックの思想、ドイツ体操・スポーツの思想など。
★ 准教授　福井　　元 修士（体育科学）	研究分野：スポーツ史 研究内容のキーワード：スポーツの技術・戦術史、施設・用具史、野球史 スポーツの用具・施設の変化により、ルール及び技術や戦術はどのように変化するかというテーマのもと、スポーツに携わった人のみが解読することができる、ゲームのスコア等を史料として、スポーツの技術史といわれる分野の研究に取り組んでいます。 他にも、野球に関する諸々の研究や、人物に関する研究も興味があります。
★★ 教授　山口　和之 博士（Linguistics）	研究分野：認知科学、言語学、英語学、外国語教育 研究内容のキーワード：認知言語学、言語と認知、類型論、言語の意味変化 言語と認知・経験の関係を研究してきました。分野としては、認知言語学という、認知科学の一分野になります。具体的には、言語の意味変化、メタファー、言語や意味構造に反映される人間の一般認知能力や経験などです。
★★ 教授　依田　充代 博士(スポーツ健康科学)	研究分野：体育・スポーツ社会学 研究内容のキーワード：体育・スポーツ社会学 スポーツ社会学 スポーツ社会学はスポーツと社会の関わりを追及する学問です。また、スポーツの社会学的現象を明らかにし、そこに起きる問題の解決をめざした研究を展開する学問でもあります。研究領域は多岐にわたりますが、具体的にいくつかの研究領域を以下に紹介しておきます。 ① スポーツ社会学の内容と方法　② スポーツと薬物　③ スポーツと暴力　④ 社会規範とスポーツ　⑤ スポーツと政治　⑥ スポーツと経済　⑦ スポーツと環境　⑧ スポーツとマスメディア　⑨ 学社融合　⑩ スポーツ・ボランティア　⑪ スポーツ情報学　⑫ 地域スポーツ　など。
★★ 准教授　梁 凌詩Nancy 博士（国際関係学）	研究分野：社会学・国際関係学 研究内容のキーワード：少子高齢化、国際関係、地域開発、ヘルシー・エイジング（健康な高齢化） 少子高齢化、人口移動、都市開発といった社会構造の変化が、身体文化や健康政策に与える影響について国際比較の視点から研究指導を行います。特に、一帯一路構想やAIIBによるインフラ開発の中で、スポーツを含む教育機関の設立や、地域における社会統合・ソフトパワー戦略としての身体活動の位置づけに注目しています。さらに、ヘルシー・エイジングの観点から高齢者の身体活動や健康支援政策との関連も扱います。社会政策・国際関係・地域開発の文脈で、身体・スポーツ・健康をめぐる社会的課題の変容と可能性を探ることを主な指導領域としています。

（スポーツマネジメントコース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授　齊藤　隆志 体育学修士	研究分野：スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：みるスポーツ、ファシリティマネジメント、イベントマネジメント
	スポーツマネジメント、スポーツ経営学 ① みるスポーツの研究（スポーツコンテンツプロデュース、観戦サービス、プロスポーツ経営） ② スポーツファシリティマネジメント（スタジアム・アリーナ運営、商業スポーツ施設） ③ スポーツマーケティング（スポーツ消費者行動、スポーツプロダクト、ブランディング）など。
★★ 教授　齋藤　義信 博士(健康マネジメント学)	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 准教授　佐野　昌行 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ社会科学
	研究内容のキーワード：スポーツマネジメント、スポーツマーケティング
	次のような様々な主体にかかわるマネジメントやマーケティングについて、量的調査や質的調査を用いて研究します。 ・スポーツイベント　・大学スポーツ　・スポーツ団体　・スポーツ生活者（実施者・観戦者・管理運営者・スタッフ・ボランティア等）
★★ 教授　日比野　幹生 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ政策学、スポーツ行政学、スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：スポーツ政策、スポーツ行政、スポーツマネジメント
	スポーツ政策学、スポーツマネジメント 主な研究指導領域 ① エリートスポーツ、② スポーツ参加促進、③ アンチ・ドーピング、④ スポーツ産業、⑤ 地域スポーツ、⑥ 国際スポーツ、⑦ 障害者スポーツ、⑧オリンピック、⑨スポーツガバナンス、⑩ スポーツ団体　など
★★ 教授　横田　匡俊 教育学修士	研究分野：スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：地域活性化、まちづくり、地域経済循環、経済効果、スポーツ産業、スポーツビジネス
	研究領域は、主に以下の二つです。 ① スポーツを活かしたまちづくり、地域活性化に関する研究：地域にあるスポーツ資源を活用して、まちづくりや地域活性化をどのように推進するかを研究します。 ② スポーツ産業・スポーツビジネスに関する研究：社会や市場の動向、人々の志向性、政策動向等を分析した上で、スポーツ産業、スポーツビジネスの構造やビジネスモデルについて研究します。

（トレーニング科学コース）

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　池田　祐介 博士（スポーツ医学）	研究分野： トレーニング科学・スポーツバイオメカニクス 研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上、キネマティクス、キネティクス、パフォーマンス分析、レジスタンストレーニング 競技パフォーマンスを向上させるためには、競技特性を明らかにした上で、競技に必要となる要素をトレーニングによって戦略的に高めていく必要があります。本研究室では、スポーツバイオメカニクスや運動生理学の研究手法を用いて、競技に必要な技術や体力要素を分析し、得られた知見を基に効果的なトレーニング方法の開発に取り組んでいます。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 自転車競技におけるペダリングパワー向上のためのトレーニング法の開発: 効果的なペダリング技術を研究し、パワー向上に繋がるトレーニング法を提案します。 ② 下肢の関節トルク、パワーが跳躍動作に及ぼす影響: 跳躍動作における関節トルクとパワーの役割を分析し、パフォーマンス向上のためのトレーニング指導を行います。 ③ 競泳のスタート動作に関する研究: スタート動作の技術向上を目指し、最適な動作パターンとトレーニング方法を探求します。 ④ 効果的なレジスタンストレーニング法の開発: 筋力強化とパフォーマンス向上を目指したレジスタンストレーニングの効果的な手法を開発します。 これらの研究を通じて、アスリートの競技力向上に貢献することを目指しています。
★★ 准教授　大塚　光雄 博士（スポーツ科学）	研究分野：スポーツバイオメカニクス 研究内容のキーワード：キネマティクス（運動学）、キネティクス（動力学）、競技力向上、運動技能 科学的なアプローチによって、アスリートにおける競技力向上や運動初心者における運動技能の改善をねらいます。現在、主に以下の2 つのテーマに取り組んでいます。 ① 高度なデバイス（光学式ハイスピードカメラ、地面反力計、慣性センサーなど）を用いた横断的・縦断的なスポーツ動作の測定・評価 ② 大衆化されたデバイス（スマートフォン、スマートウォッチなど）を用いた運動技能の測定・評価方法の開発 フィールドから実験室まで様々な場所で測定を行い、国際大会で優勝する選手から運動嫌いな子どもまで幅広い運動パフォーマンスの分析を行っています。世界中の研究機関とのネットワークを活用しながら、前例にとらわれずに、スポーツ科学、社会に貢献することを目指しています。
★★ 教授　岡本　孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ生理学 研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス、コンディショニング、トレーニング、競技力向上、リカバリー 運動・スポーツ生理学を基盤として、効果的な運動トレーニング法の開発やアスリートの競技力向上とコンディショニングに資する実践的な研究を行います。スポーツ現場の疑問を科学で解明し、その結果をトレーニングやコンディショニングの実践に還元することを目指します。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 心血管系機能を指標としたコンディショニング法の開発 ② 運動・栄養・休養のタイミングがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響 ③ トレーニング効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ④ パフォーマンス向上を目指した機能性食品（クレアチン、グリコーゲンなど）の効果的なローディング法の開発 ⑤ 戦略的リカバリー法の構築

教員名	研究指導領域
★★ 教授　大石　健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルディバイス、GIGAスクール、DX、子ども、幼児、家庭環境、社会環境、生活習慣、運動習慣、体力、運動能力
	主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」、「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」と「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」の3 つになります。全研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルディバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡便に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりディバスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。 ③「子ども（主に幼児）を対象とした疫学研究」 子どもの体力・運動能力または健康状態と生活習慣や生活環境との関連性について研究します。具体的には、幼児の25m 走、立ち幅とび、テニスボール投げ等の記録や運動の好き・嫌い、風邪や怪我の頻度をアウトカムとし、家庭環境（家族構成・住宅様式等）、生活習慣（起床時刻・習い事等）、施設内環境（保育所や幼稚園・学校間等）、地域間（都市部・農村部等）との関連性について疫学手法を用い検討する研究となります。また、子ども達の日常における身体活動強度や身体活動量を定量化することも研究テーマとしています。現在は、継続測定を実施し体力・運動能力の変化量（率）をアウトカムにした研究を実施しています。これらの研究結果から二極化が懸念されている子ども達の体力・運動能力向上の方策を考えます。
★ 教授　梶　　規子 博士（保健医療学）	研究分野： アスレティックトレーニング
	研究内容のキーワード：アスレティックトレーニング、コンディショニング、スポーツ外傷・障害、アメリカンフットボール
	アスリートのパフォーマンス向上、傷害発生予防に関わる研究、またスポーツ現場における安全管理、安全・安心な競技活動に関する研究を行っている。 ①スポーツ傷害の特徴を明らかにし、それに基づいた予防策の検討 ②傷害予防とパフォーマンス向上を目的としたトレーニング方法の検討 ③安全・安心な競技活動実施に関する検討

教員名	研究指導領域
★★ 教授　菊池　直樹 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ遺伝学
	研究内容のキーワード：ストレングス＆コンディショニング、スポーツ遺伝学、遺伝子多型、競技パフォーマンス、筋力トレーニング、高強度インターバルトレーニング、運動と健康
	スポーツ遺伝学およびストレングス＆コンディショニングに関わる諸研究を行う。エクササイズによる身体反応や損傷に対するリスクの個人差を解明することで個人対応型のトレーニングおよびコンディショニング方法の確立を目指します。 主な研究テーマは以下のとおりです。 1、エリートアスリートの遺伝特性に関する研究 2、怪我およびサプリメント摂取の感受性に関する遺伝特性の研究 3、遺伝子特性を考慮したトレーニング戦略の開発 4、ストレングストレーニングの効果を最大化するトレーニング変数に関する研究 5、Velocity based training (VBT)および高強度インターバルトレーニングに関する研究 6、中高齢者へのトレーニング介入研究
★ 教授　河野　徳良 Athletic Training M.S.	研究分野：アスレティックトレーニング
	研究内容のキーワード：アスレティックトレーニング、コンディショニング、スポーツ外傷・障害の予防、投球動作、打撃動作、スポーツ動作
	アスレティックトレーナーの学問的・職業的領域であるアスレティックトレーニングに関わる研究であり、特に現場に還元することを第一義と考えた実践的研究内容を行う。 ①スポーツ外傷・障害予防に関する研究 ②スポーツ動作からみたパフォーマンス向上に関する研究 ③スポーツ動作からみた外傷・障害に関する研究 ④スポーツ現場における緊急時対応計画（EAP）に関する研究
★★ 教授　杉田　正明 博士（学術）	研究分野：トレーニング科学、体力科学
	研究内容のキーワード：競技力向上、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング、パフォーマンス分析
	運動パフォーマンスを高めるトレーニングやコンディショニングに役立つ実践的なスポーツ科学的研究を行っている。 ① スポーツ科学的手法を用いた競技スポーツ選手の競技力向上及び科学的支援に関する研究 ② 競技スポーツ選手を対象としたコンディショニングに関する研究 ③ 体力科学的見地からのトレーニング方法（含・高地トレーニング、低酸素トレーニング）に関する研究 ④ 競技選手のパフォーマンス分析に関する研究
★★ 教授　須永　美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝）
	健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。 特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。 ① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③ 「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　髙井　秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学
	研究内容のキーワード：競技スポーツ、アスリート、ストレス、情報処理過程、心臓自律神経活動
	スポーツ心理学に関する基礎的研究を進めており、ヒトの身体活動に伴う情報処理過程や心臓自律神経活動を中心に検討しています。特に、競技スポーツにおけるストレス状況下でのアスリートの心理・生理的反応について明らかにすることを研究課題としています。
★★ 教授　西山　哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス
	研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、自転車競技
	① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。 ② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団、または個人のパフォーマンス向上をスポーツ医科学の観点から総合的にコーディネートする感性を育む。
★★ 教授　黄　　仁官 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、体力学、運動処方
	研究内容のキーワード：トレーニング科学、競技力向上サポート、運動処方と運動療法、加齢・老化、スポーツ遺伝子
	研究のキーワードは、① アスリートの競技力向上に及ぼす体力の影響、② 高齢者の介護予防を目的とした体力、③ 子どもの発育・発達と体力との関連を柱に調査・測定・評価し、その問題点と改善策について検討します。
★★ 教授　三村　　覚 博士（心理学）	研究分野：スポーツ心理学、スポーツ心理臨床、実験心理学
	研究内容のキーワード：アスリートへの心理的介入、自律訓練法、催眠技法、生理心理学的指標、エゴグラム
	スポーツ現場で起こる事象について心理学からのアプローチを試みます。主な領域は以下になります。 ①アスリート・スタッフへの心理支援 ②リラクセーション技法の効果と特徴 ③生理心理学・精神生理学的指標の検討

（健康スポーツ医科学コース）

教員名	研究指導領域
★★ 教授　岡田　　隆 博士（体育科学）	研究分野：トレーニング科学、スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション
	研究内容のキーワード：筋力トレーニング、筋肥大、除脂肪、減量、スポーツ外傷・障害、動的関節制御、腰痛、椎間板変性、リカバリー、睡眠、体幹筋、ボディビル、柔道
	トレーニング科学領域 ① 限局的な筋領域に効果的なトレーニング方法の開発 ・領域特異的および長軸区画的な館活動に関する研究 ・対象筋の筋活動を増強する内部意識集中に関する研究 ・体幹深部筋のトレーニング方法の開発 ② 高い筋出力を可能にする神経生理学的メカニズムの探索 ③ 効果的な体脂肪除去方法（除脂肪）の開発 ④ 睡眠と筋力トレーニングおよび除脂肪に関する研究　　など スポーツ整形外科学、アスレティックリハビリテーション領域 ① 腰痛、椎間板変性 ② 主動筋と拮抗筋による関節の動的制御 ③ 腱障害　　など

教員名	研究指導領域
★★ 教授　奥田　拓史 博士（医学）	研究分野： スポーツ医学、ゲノム医学
	研究内容のキーワード：腎臓内科、遺伝統計学、GWAS、救急医学、医学教育、プライマリケア、Performing Arts Medicine（演奏芸術医学）、相撲、柔道
	スポーツという切り口から、音楽を始めとした舞台芸術もスポーツとして捉え、様々な事象の解明を目指します。当たり前と思っていることが、実は科学的に立証されていないことは意外に多いです。当たり前にやっていること、慣例として行われていることに、「なぜだろう」という疑問を持つとが研究の第一歩です。素朴な問いでもいいので、「なぜ」という気持ちを大切にして、研究を進めていきましょう。各位の「なぜ？」を、Research Questionにするところから、始めましょう。新設の研究室のため、遂行中のテーマはありません。だからこそ、あらゆるテーマを研究課題として設定できます。研究指導者が興味をもっている分野は、下記の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。 ①スポーツによる腎機能への影響 ②腎不全患者におけるスポーツ ③スポーツと遺伝 ④音楽を運動という側面から捉えた研究 ⑤舞台芸術や対人競技における緊張について
★★ 教授　岡本　孝信 博士（人間科学）	研究分野：運動生理学、健康生理学、健康運動学、健康増進学
	研究内容のキーワード：総合型生活習慣病予防、サクセスフルエイジング、健康寿命、動脈硬化、血管内皮機能、認知症、サルコペニア、ヘルスプロモーション
	若年者から高齢者に至る全ての年代が生涯健康であることを目的に、心血管疾患、介護および認知症を総合的に予防する “総合型生活習慣病予防” を目指した研究を推進します。 主な研究テーマは以下の通りです。 ① 総合型生活習慣病予防を目指したレジスタンス運動および有酸素運動法の開発 ② 健康増進効果を高めるポリフェノール摂取法の検討 ③ 骨格筋電気刺激トレーニングの健康増進効果の解明 ④ 筋、呼吸循環および認知機能の改善に向けた健康増進プログラムの開発 ⑤ 体力、呼吸循環および認知機能の加齢変化の関連探索
★★ 准教授　城所　哲宏 博士（教育学）	研究分野：発育発達学、運動疫学、公衆衛生学
	研究内容のキーワード：子ども、身体活動、座位活動、体力、生活習慣病、国際共同研究
	子どもを対象に、身体活動を通じた体力向上および生活習慣病予防に関する研究をしています。国内および海外における大規模コホート研究のデータを活用し、疫学的な手法を用いて研究を進めています。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 子どもにおける早期生活習慣病予防に関する研究 ② 子どもの身体活動・体力に関する国際共同研究 ③ 身体活動を促進させる環境づくりに関する研究
★★ 教授　木村　直人 博士（体育科学） 博士（医学）	研究分野：健康科学、衛生学公衆衛生学
	研究内容のキーワード：エネルギー代謝、健康管理、ストックウオーキング
	人の健康の保持・増進、体力の向上に関わる運動・栄養・休養（休息）など、「運動に関わる健康管理（予防医学）」が指導の中心となります。① 環境因子（暑熱、寒冷など）、② 骨格筋のエネルギー代謝、③ 生化学（血液、尿）、④ 生体負担（筋疲労等）などと健康や競技力の向上との関連について検討します。

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　鴻﨑　香里奈 博士（体育科学）	研究分野：運動生理学、スポーツ医学、栄養学
	研究内容のキーワード：筋損傷、筋肥大、末梢神経損傷、サルコペニア、神経筋接合部、筋電気刺激、栄養介入、ケトジェニックダイエット、スポーツ損傷、伸張性収縮、肉離れ、がん悪液質筋ジストロフィー、代謝、実験動物
	スポーツ損傷、加齢現象、疾患などの様々な要因が運動器の機能や構造へ及ぼす影響について検証をおこないます。実験動物（ラット・マウス）や培養細胞を用いた基礎研究、およびヒトを対象とした臨床研究の両方に対応可能です。実験動物や培養細胞による研究では、様々な実験手法の習得およびそれらを用いた実験研究を展開します。ヒトを対象とした研究においても、実験や測定に必要な手法の習得およびそれらを用いた介入実験や調査研究を展開します。研究テーマについては事前に相談した上で決定しますが、現在進行中のテーマは下記の通りです。 ・ 短期間の継続的なケトジェニックダイエットが運動器の機能および構造、全身代謝へもたらす影響を検証する ・ 筋ジストロフィーモデルマウスにおける神経・筋機能と構造異常を検証する ・ 運動誘発性筋損傷による神経損傷の作用機序を解明する ・ 培養筋細胞における特定遺伝子の発現変動が筋タンパク質代謝や構造へもたらす影響を検証する ・ がん悪液質モデル動物における神経の機能・構造変化を検証する 研究によって得られる成果は、幅広い年代を対象とした健康増進、およびスポーツ現場へ積極的に応用することを目指します。
★★ 教授　小林　正利 博士（医学）	研究分野：顕微解剖学、健康教育学
	研究内容のキーワード：骨格筋の組織化学、健康教育学、運動と糖、乳酸代謝
	健康維持・増進に関わる因子や環境について探索し検討しています。 ① 骨格筋の再生過程に関わる細胞の組織化学的検討 ② 運動と健康関連機能の検討
★★ 教授　齋藤　義信 博士(健康マネジメント学)	研究分野：スポーツ・身体活動の疫学、ヘルスプロモーション、健康スポーツマネジメント
	研究内容のキーワード：身体活動、疫学、公衆衛生、健康づくり、健康行動理論、エコロジカルモデル、身体活動支援環境、システムズ・アプローチ、普及と実装科学
	スポーツや身体活動を通じたヘルスプロモーションを計画・実践・評価・改善し、社会に普及・実装する「健康スポーツマネジメント」について研究します。主な研究テーマは以下の通りです。 ① 安全で効果的なスポーツ・身体活動についての疫学研究 ② 公衆衛生やヘルスプロモーションの観点から、スポーツ・身体活動を普及推進するための研究
★★ 准教授　三瓶　舞紀子 博士（医学）	研究分野：社会疫学、精神保健、インターコンセプション
	研究内容のキーワード：社会疫学、健康の社会的決定要因、相対的格差、マルチレベル、精神・母子保健、動機づけ面接、インターコンセプション
	家族、地域社会など心理社会的環境がこどもや若年世代の心身の健康に与える影響やメカニズムや介入方法、妊娠前からの若年世代への早期介入の意義等について検討します。また、疫学や統計学の基礎を学びます。 ① 新型コロナウイルス感染症流行による子どもの食生活変化とその社会経済的要因及び行政連携の仕組み解明のための研究 ② 月経/ 基礎体温管理アプリを用いた女性のリプロダクティブヘルスとこころの健康及び社会的リスク要因に関する研究 ③ 娠・周産期に異常があった産後女性の医療従事者からのインターコンセプションケアの認識と健康行動の実態に関する研究 ④ インターコンセプションケアの行動的リスクに関するアプリを用いた教育プログラムの開発

教員名	研究指導領域
★★ 教授　須永　美歌子 博士（医学）	研究分野：運動生理学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：月経周期、女性アスリート、コンディショニング、性差、エネルギー代謝（糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝）
	健康なからだを維持しながらパフォーマンスを向上させるためには、戦略的にトレーニングプログラムを構築し、コンディショニング方策を立てる必要があります。本研究室では、ヒトを対象にトレーニングや栄養摂取などの条件の違いが運動パフォーマンスやトレーニング効果に与える影響について運動生理学的手法を用いて分析し、スポーツ現場に還元することを目指して研究に取り組んでいます。 特に性差や月経周期の影響に着目し、以下のような研究を行っています。 ① 月経周期を考慮したコンディショニング法の開発 ② 女性の形態的・生理的特性を考慮したトレーニングプログラムの検討 ③ 「女性アスリートの三主徴」の予防・改善に関する研究
★★ 准教授　田村　優樹 博士（学術）	研究分野：分子運動生理学、分子運動代謝学
	研究内容のキーワード：骨格筋、脂肪、メカノバイオロジー、ミトコンドリア、リソソーム、温熱刺激、サルコペニア、廃用性筋萎縮、トレーニング、リハビリテーション
	効果的なトレーニングやリハビリテーションの創出を見据え、分子生物学の手法を用いた基礎研究を実施しています。現在実施している研究課題は次の通りですが、大学院生自身の関心に基づく研究計画の提案も歓迎します。 ① 運動や不活動、老化、疾患などに伴う「細胞/ 器官/ 個体の適応」と「分子メカニズム」の解明 ② 物理療法の「生物医学的根拠の構築」と「新規適応症の探索」 ③ 新規栄養素材の「探索・有効性検証」と「トレーニング/ リハビリテーションへの応用」
★★ 教授　津山　　薫 博士（体育科学）	研究分野：発育発達
	研究内容のキーワード：子ども、中高齢者、アスリート、運動能力、トレーニング
	① 身体運動や生活習慣が体力に及ぼす影響　② 子どもの体力と運動との関係　③ 中高齢者の体力と運動との関係、などがおもな研究指導領域です。
★★ 教授　中里　浩一 博士（学術）	研究分野：スポーツ生理・生化学、基礎スポーツ医学
	研究内容のキーワード：加齢、筋損傷、筋肥大、筋萎縮、動物・細胞モデル、遺伝子多型、筋タンパク質合成、筋タンパク質分解、細胞外マトリックス
	力学的刺激を含む幅広い外的因子への筋骨格系組織（骨格筋、腱、靭帯など）の生理・生化学的応答あるいは適応を分子・細胞・組織レベルで検討していくことを主なテーマとします。スポーツ生理、トレーニング方法、スポーツ損傷、スポーツ医学など応用的な展開を常に意識して研究を進めていきます。特に分子レベルでの検討を中心とすることおよび自分自身で手を動かしてデータを出してもらうことを求めますので、本研究室を希望する学生は相当の時間と労力を使う覚悟が必要です。その代わり得られるものも十分にあると思います。具体的なテーマは以下のとおりです。 ① 実験モデル（動物・細胞）を用いた筋損傷発生および修復過程の分子メカニズムの解析 ② 実験モデル（動物・細胞）を用いた随意あるいは不随意での筋力トレーニングに対する骨格筋適応の分子メカニズムの解析 ③ 加齢あるいは全身炎症に伴う骨格筋萎縮のメカニズム解明とその克服 ④ ヒト遺伝子構造の多型性が筋骨格系組織に与える影響の基礎的検討

（身体教育・健康教育コース）

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　市川　優一郎 博士（心理学）	研究分野：教育心理学、健康心理学、生理心理学 研究内容のキーワード：不安、ストレス、感情、態度、生理的反応、発達障害 心理学の立場から、心と身体の関連を実証的に研究し、その成果を教育や健康に応用する。調査ならびに実験により測定した　① 心理的反応、② 行動的反応、③ 生理的反応を分析し、仮説検証していく。
★★ 教授　岡出　美則 博士（教育学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学 研究内容のキーワード：カリキュラム論、学習指導論、教師教育論 体育授業の研究対象である ①カリキュラム論、②学習指導論並びに ③教師教育論に関連した研究を進めていきます。カリキュラム論では、カリキュラムの国際比較やカリキュラム評価が、学習指導論では学習指導論の効果検証が、教師教育論では体育教師の成長を促す方略の効果検証がテーマの例になります。
★★ 教授　岡本　美和子 博士（看護学）	研究分野：リプロダクティブヘルス、母子保健 研究内容のキーワード：子育て支援、女性の健康、子どもの保健、児童虐待、リプロダクティブヘルス 主に女性と子どもの健康問題と健康支援が研究の中心となる。 ① ライフサイクルから見た女性の健康課題と健康支援 ② 胎児期・乳幼児期・学童期の子どもの健康と環境 ③ 思春期の健康教育 ④ 女性アスリートに対する子育て支援
★ 教授　小泉　和史 博士（海洋科学）	研究分野：野外教育（海洋）、アクアスポーツ 研究内容のキーワード：スクーバダイビング、水中スポーツ、野外教育 アクアスポーツや野外活動などが研究領域になります。 指導者、教育者などにとっての疑問点から、現場において必要な以下のような研究課題について検討する。 ① スクーバダイビング、スキンダイビング、スノーケリングにおける教育的効果や指導の研究 ② フィンスイミングにおける分析や指導の研究 ③ 水中スポーツ（水中ラグビー、水中ホッケー、フリーダイビング等）の指導および研究 ④ 野外活動における救急法、救助法指導および危険生物の調査などリスク、クライシスマネージメントの研究 ⑤ 野外活動（海洋や山野のキャンプなど全般）と地球環境問題の研究 ⑥ 水を活用するスポーツ（アクアスポーツ）全般と生命教育の研究など多岐の分野が挙げられる。
★★ 教授　近藤　智靖 博士（体育科学）	研究分野：体育科教育学、スポーツ教育学 研究内容のキーワード：カリキュラム、体育授業研究、教材・教師 ① 体育科のカリキュラム論 ・体育の教育課程における目標に関する研究 ② 体育科の学習指導論 ・体育の教材に関する研究 ・教師行動に関する研究 ③ 体育授業研究 ・体育における学習成果に関する研究 ・児童生徒行動に関する研究

教員名	研究指導領域
★★ 教授　鹿野　晶子 博士（体育科学）	研究分野：学校保健学、発育発達学 研究内容のキーワード：子どものからだと心、養護教諭 子どものからだと心、それを支える養護教諭をテーマとし、日常的には、子どものからだと心に関する学校教育現場等での野外調査に従事しながら研究をすすめている。 主な研究領域は　① 養護教諭の職務と養護活動、保健室の機能　② 学校保健　③ 子どものからだと心の健康課題全般とする。
★★ 教授　白旗　和也 博士（ｽﾎﾟｰﾂ健康科学）	研究分野：スポーツ教育学、教師教育学 研究内容のキーワード：学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の授業づくり、教師の効力感を高めるためのコンサルテーション、幼児期・児童期における動きの獲得、開発途上国における体育支援 学習指導要領に基づき、すべての児童生徒に豊かなスポーツライフを実現するための方策について、幼児、児童、生徒の立場から、または教師の立場から学校現場の実情に応じた研究を推進する。 ① 学習指導要領に基づいたカリキュラム論、学習指導論 ② 教師効力感に基づいた教師教育論、コンサルテーション方略 ③ 幼児期運動指針に基づいた幼児の運動遊びと動きの獲得
★★ 教授　鈴川　一宏 博士（医学） 博士（体育科学）	研究分野：ヘルスプロモーション、公衆衛生学 研究内容のキーワード：子ども、生活習慣、運動習慣、行動体力、防衛体力、免疫、疲労、メンタルヘルス、ヘルスプロモーション、健康教育、学校保健 保健体育教諭や養護教諭が取り組むべき、子ども（児童生徒）における規則正しい生活習慣、体育・スポーツや運動習慣の必要性、学校現場における保健活動、ヘルスプロモーションに関する研究等を研究指導領域とします。そのため、児童生徒を対象として、生活習慣や運動習慣、防衛体力（健康感、免疫能、メンタルヘルスなど）について調査を行い、以下について研究を行っていきます。 ① 児童生徒の生活習慣、運動習慣に関する研究 ② 児童生徒の行動体力と防衛体力に関する研究 ③ 児童生徒の健康管理・健康教育・健康対策に関する研究 ④ 児童生徒のストレスや疲労に関する研究 ⑤ 学校保健とヘルスプロモーションに関する研究 ⑥ 児童生徒と教員のメンタルヘルスに関する研究
★ 助教　田中　　良 博士（体育科学）	研究分野：教育保健学、学校保健学、発育発達学 研究内容のキーワード：子どもの健康、生活習慣、健康教育 子どもの健康や生活習慣、生活環境の実態を把握しながら、子どもの健康に関連する学校環境や健康教育について研究活動を進めている。 主に、① 子どもの生活習慣と健康との関連、② 子どもの健康を改善する学校・教室環境、③ 中高生の健康行動と関わる健康教育 等をテーマとしている。
★ 教授　津田　博子 体育学修士	研究分野：舞踊学・舞踊教育学 研究内容のキーワード：舞踊・教育・ダンス教材・イメージ・伝統芸能舞踊の歴史 舞踊に関する教育学的研究 身体表現系方法学的研究 身体表現やダンスを用いた教育学的活動の効果に関する研究 比較舞踊の研究　等

教員名	研究指導領域
★★ 准教授　寺岡　英晋 博士（教育学）	研究分野：スポーツ教育学
	研究内容のキーワード：カリキュラム、教師行動、学習成果、評価、教師教育、国際協力、卓球
	学校体育・スポーツ活動が多様な教育課題の解決にどのように貢献できるかを探求することを主なテーマとしています。具体的には、以下のようなテーマが研究指導領域になります。 ①教師行動の測定と評価 ②児童生徒の社会・情意領域の学習成果を生み出すメカニズムの解明 ③教師の資質向上を図る教育プログラムの開発と評価 ④カリキュラム分析と国際比較 ⑤ 体育・スポーツを通じた国際協力に関わる研究 上記以外でも、教育学的研究で関連するキーワードに該当するテーマも歓迎します。
★★ 教授　野井　真吾 博士（体育科学）	研究分野：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学
	研究内容のキーワード：教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学、子どものからだ、子どもの体力、子どもの健康
	キーワードは、「子ども」「からだ」「心」「体力」「健康」「元気」「生活」。 研究領域は、教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学。具体的には、子どものからだ、心、体力、健康、元気、生活が「どこかおかしい」、「ちょっと気になる」、「なんか心配」といった保育・教育現場の教諭や養護教諭、さらには、子育て中のお母さん、お父さんの“実感”をたよりに、子どものからだにこだわってその“事実”を明らかにし、“実体”を追究する活動（問題を発見するための研究）と、発見された健康課題を改善し、子どもの元気を具現化するための活動（問題を解決するための研究）とに努めている。
体育科学学位プログラム　★ 体育実践学学位プログラム ★★ 教授　三宅　良輔 博士（医学）	研究分野：複合領域
	研究内容のキーワード：体操、体つくり運動、健康運動、運動指導論、成年・老年期の体育
	健康づくりを目的とした「体操」の実践的な研究活動を行う。子どもから高齢者までを対象に、それぞれの年齢、体力、健康状態に合わせた健康運動を研究する。 ① 幼児の運動あそび、親子体操の研究 ② 学校体育における「体つくり運動」、「集団演技」に関する教材研究 ③ 成年・老年期の健康づくりのための「体操」に関する研究 ④ 体操指導に関する研究

■コーチング科学学位プログラム、コーチング実践学位プログラム

教員名	研究指導領域
★★ 教授　青柳　　徹 修士（体育学）	研究分野：コーチング学、トレーニング科学
	研究内容のキーワード：心・技・体
	コーチング・トレーニング・運動学習とパフォーマンスに関する研究 本研究室では、競技力の向上を目的としたトレーニングの体系化および幅広い知識を基に指導を行う実践的な指導者の育成を狙いとする。そして、競技（運動）パフォーマンスはヒトの学習によって生じることを理解して心理学・生理学・バイオメカニクス的な手法を用いた実践的研究を行う。
★★ 教授　伊藤　雅充 博士（学術）	研究分野：コーチング学、コーチ教育
	研究内容のキーワード：アスリートセンタードコーチング、コーチ教育、コーチデベロッパー
	アスリート・センタード・コーチングをキーワードとして学習者中心の指導のあり方を研究する。研究テーマはコーチングのWHAT（アスリートの競技力向上等）ではなく、コーチングのHOWである。研究手法として質的研究および量的研究、あるいはその両方を組み合わせた混合研究法を採用する。コーチングスキルの向上を目指すコーチは、アクションリサーチを実施することを勧める。
★★ 准教授　岩原　文彦 博士（体育科学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：コーチング、コーチングスタッフ教育、ハイパフォーマンスコーチング
	より効果的なコーチングを行うための考え方、パフォーマンス分析等によって得られた科学的データの解釈および活用、トレーニングメニューや年間スケジュールの作成および評価等を中心に検討を行っていきます。学際的な観点からコーチング学を捉え実践的に研究を進めます。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　内山　治樹 教育学修士 博士（体育科学）	研究分野：コーチング科学、体育・スポーツ哲学
	研究内容のキーワード：コーチング、コーチ、競技スポーツ、競技力、競技特性、競技者、チーム、技術、戦術、バスケットボール
	これまでは、競技スポーツの中でも最も複雑な競技特性を有するバスケットボールを対象に、チームスポーツに固有の技術、戦術、体力、トレーニング法など、競技として成立する上での本質的構成要素について研究を行ってきました。現在は、哲学や現代思想における種々の知見を汎用性を備えた思考のツールとして用いることで、コーチングのメカニズムやコーチの存在理由なども含む、バスケットボールの競技力の形成と向上にかかわる諸要因・諸要素およびそれらの相互規定性を制御する深層の仕組みの解明に取り組んでいます。 過去5 年間の主な研究テーマは、以下のとおりです。 ① コーチング科学の学問性について ② スポーツ・コーチングの理念性にかかわる概念とメカニズムの探究 ③ チームスポーツにおける協働行為の指針の探求 ④ チーム・パフォーマンスの生成にかかわる前提要件の検討 ⑤ バスケットボールにおける「ゲームの流れ」と勝敗の因果関係について
★★ 教授　大石　健二 博士（体育科学）	研究分野：体育測定評価学、スポーツパフォーマンス分析、教育工学、情報工学
	研究内容のキーワード：スポーツパフォーマンス分析、ゲームパフォーマンス分析、戦術、戦略、統計学、確率論、評価項目（測定項目）の検討と開発、分析方法の検討と開発、ICT教育、STEAM教育、ウェアラブルディバイス、GIGAスクール、DX
	主な研究テーマは、「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」と「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」の2 つになります。両研究領域共通として数値データを用い、統計学や確率論を基礎とした研究となります。 ①「スポーツパフォーマンス分析・ゲームパフォーマンス分析」 生体ウェアラブルディバイスや小型ビデオカメラの普及により、選手個人の移動（距離・速度）データや心拍数データに加え、パスやシュート等のスポーツパフォーマンスを簡便に数値化することが可能となりました。そのため、GPS データや画像データを用いスポーツを数値化し、勝敗と関連がある項目の検討や今後の試合予測が研究テーマとなります。これらの研究結果から、対象チームのトレーニング内容（課題）を考えます。現在、研究対象とするスポーツ種目の制限を設けてはいませんが、サッカー、ハンドボール、バレーボール、水球など球技種目を主としています。 ②「体育・スポーツにおけるICT利用の効果検証」 令和6年度からの高等学校 DX 加速化推進事業により、高等学校における体育授業をはじめ部活動でのICT活用が飛躍的に拡大しています。ただ一方では、これまでの体育や部活動の実施方法を踏襲している学校も散見されます。このように、コロナ禍におけるGIGAスクール構想事業によりディバスの普及は全国に及んだが、ICTの利用については学校間や地域間において格差が生じ始めています。そこで、本研究では高等学校 DX 加速化推進事業採択学校と共同し、STEAM教育コンテンツの開発ならびに体育をはじめとする部活動におけるICT活用による効果検証を実施します。これらの研究結果から、新しい体育授業や部活動における指導方法(コーチング方法)の提案をします。
★★ 教授　大本　洋嗣 修士（体育学）	研究分野：コーチング学
	研究内容のキーワード：水球、水泳、コーチング
	アスリートの競技力向上のためにコーチが果たすべき役割についての研究を行う。日々変化する新しいコーチング手法について、競技スポーツ現場において実践的なアプローチと評価を行い理想のコーチングを探る。
★ 准教授　小林　史明 修士（体育科学）	研究分野：陸上競技
	研究内容のキーワード：陸上競技、棒高跳、バイオメカニクス
	陸上競技に関わるコーチングおよび競技力向上への体力的、技術的なトレーニング方法の検討、実践研究。

教員名	研究指導領域
★★ 教授　齋藤　一雄 博士（医学）	研究分野：複合領域 研究内容のキーワード：技力向上（相撲）、身体組成、筋力 対人競技に関わるコーチングおよび競技力向上への体力的、技術的、心理的なトレーニング方法の検討、実践研究。
★★ 准教授　佐良土　茂樹 博士（哲学）	研究分野：コーチング学 研究内容のキーワード：コーチング学原論、コーチング哲学、コーチ育成、バスケットボール、マインドスポーツ（将棋） コーチングはそもそもどのような営みであるのかを考える原論の研究、コーチが持っている哲学についての研究、および、コーチの学びを中心とするコーチ育成やその学びを支援するコーチデベロッパーについての研究を行っています。また、近年はコーチングに関わる概念、さまざまな思想に基づいたコーチングのあり方、コーチの生き方についても研究を進めています。基本的にスポーツ全般を研究対象としていますが、特にバスケットボールに関する研究を専門としています。
（コーチング科学学位プログラムのみ） ★★ 教授　杉田　正明 博士（学術）	研究分野：コーチング学、トレーニング科学 研究内容のキーワード：スポーツ科学を活用したコーチング、トレーニング科学、体力科学、コンディショニング、パフォーマンス分析 運動パフォーマンスを高めるコーチング、トレーニングに役立つ実践的なスポーツ科学的研究を行っている。 競技力向上に導くコーチングに関するトレーニングやコンディショニングの面や様々な競技選手のパフォーマンス分析や調査を行っている。
★★ 准教授　髙井　秀明 博士（体育科学）	研究分野：スポーツ心理学 研究内容のキーワード：スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、リラクセーション アスリートの競技力向上や実力発揮を目指した、スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングに関する実践的研究に取り組んでいます。特に、ストレスの対処方略として活用されている自律訓練法や漸進的弛緩法、バイオフィードバック法などのリラクセーション技法の効果について検討しています。
★★ 教授　南部　さおり 博士（医学）	研究分野： 医学、法学、心理学、社会学、社会科学複合分野 研究内容のキーワード：児童虐待、体罰、部活動の安全指導、学校事故、少年非行 スポーツ危機管理学 スポーツにおける安全指導、スポーツ事故の原因分析と再発防止、体罰・パワハラ・暴言指導に関する研究、学校部活動のあり方に関する研究、学校体育における苦手克服・楽しい体育・安全指導、スポーツ指導者の資質向上、スポーツ活動が少年非行と犯罪に及ぼす影響など学校安全に関する研究 いじめ、ブラック部活動、教員の不適切指導、教育現場でのハラスメント、対教師暴力、不登校問題など
★★ 教授　西山　哲成 博士（医学）	研究分野：トレーニング科学、バイオメカニクス 研究内容のキーワード：パフォーマンス向上、バイオメカニクス、生理学、技術・体力評価、科学サポート、自転車競技 ① スポーツパフォーマンスを高めるための技術、体力評価、およびそのトレーニング、コーチング方法に関する研究を扱う。 ② バイオメカニクス、および生理学的手法による科学サポート、指導に役立つ基礎的・実践的研究を対象とする。 ③ 指導またはサポート対象となる集団、または個人のパフォーマンス向上をスポーツ医科学の観点から総合的にコーディネートする感性を育む。

教員名	研究指導領域
★ 教授　根本　研 体育科学修士	研究分野：コーチング学 研究内容のキーワード：コーチング学、チームビルティング、パフォーマンス分析 より効果的なコーチング実践を探求し、現場で創出した事象を対象にしたコーチングの研究を行う。競技力向上の課題に対して、実際のゲームでのパフォーマンス発揮を考えた実践的な研究課題を見つけ出し、現場に有益なパフォーマンス向上の為のプロセスに向き合い研究を進めていく。 ＜研究課題＞ ① コーチングマネージメントに関する研究 ② チームビジョン・ミッションに関する研究 ③ チームビルディングに関する研究 ④ 戦略・戦術に関する実践研究
★ 教授　畠田　好章 修士（体育学）	研究分野：複合領域 研究内容のキーワード：器械運動、体操競技、競技力向上 体操競技における競技力向上のための技術的分析や実践的なコーチング、トレーニング方法について研究を進める
★ 教授　山本　洋祐 博士（医学）	研究分野：対人型スポーツのコーチング 研究内容のキーワード：対人型スポーツのコーチング（メンタル、体力、技術力、人間力） 対人型スポーツを中心に競技力、人間力が向上する為のコーチング方法について研究を進める。 ① 対人型スポーツ初心者からトップアスリートまでの範囲において年齢や熟達度に応じた適切なコーチングの研究 ② 対人型スポーツにおけるトップアスリートの特徴や高い国際競技力を獲得するための環境の重要性を学びジュニア期から世界レベルまでの各ステージにおける最適なコーチングの研究

［博士前期課程］研究指導教員一覧表(研究指導補助教員を含む)

（教員資格欄）指導－研究指導教員、(補助)－研究指導補助教員　　市街局番：　東京(03)　横浜(045)

	教員資格	氏名	フリガナ	所属学位プログラム	東京・世田谷キャンパス電話番号	横浜・健志台キャンパス電話番号	メールアドレス
あ	指導	青柳　徹	ｱｵﾔﾅｷﾞ ﾄｵﾙ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム		479-6938	aoyanagi@nittai.ac.jp
	指導	池田　祐介	ｲｹﾀﾞ ﾕｳｽｹ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース）		963-7946	yusuke-ikeda@nittai.ac.jp
	指導	石井　隆憲	ｲｼｲ ﾀｶﾉﾘ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0941	479-8324	t-ishii@nittai.ac.jp
	指導	市川　優一郎	ｲﾁｶﾜ ﾕｳｲﾁﾛｳ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）		530-5143	yichikawa@nittai.ac.jp
	指導	伊藤　雅充	ｲﾄｳ ﾏｻﾐﾂ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0995		itom@nittai.ac.jp
	指導	岩原　文彦	ｲﾜﾊﾗ ﾌﾐﾋｺ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0937		iwahara@nittai.ac.jp
	指導	内山　治樹	ｳﾁﾔﾏ ﾊﾙｷ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0826		uchiyama.h@nittai.ac.jp
	指導	大石　健二	ｵｵｲｼ ｹﾝｼﾞ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース） コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-1096		oishi@nittai.ac.jp
	指導	大塚　光雄	ｵｵﾂｶ ﾐﾂｵ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース）		479-7115	otsuka.m@nittai.ac.jp
	指導	大本　洋嗣	ｵｵﾓﾄ ﾖｳｼﾞ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0987	530-5892	omoto@nittai.ac.jp
	指導	岡田　隆	ｵｶﾀﾞ ﾀｶｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1024		t-okada@nittai.ac.jp
	指導	岡出　美則	ｵｶﾃﾞ ﾖｼﾉﾘ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0946		okade@nittai.ac.jp
	指導	岡本　孝信	ｵｶﾓﾄ ﾀｶﾉﾌﾞ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0966		tokamoto@nittai.ac.jp
	指導	岡本　美和子	ｵｶﾓﾄ ﾐﾜｺ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0978		okamotom@nittai.ac.jp
	指導	荻　浩三	ｵｷﾞ ｺｳｿﾞｳ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-1213		k-ogi@nittai.ac.jp
	指導	奥田　拓史	ｵｸﾀﾞ ﾋﾛｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0991		h.okuda@nittai.ac.jp
か	(補助)	梶　規子	ｶｼﾞ ﾉﾘｺ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース）		963-7948	kaji@nittai.ac.jp
	指導	菊池　直樹	ｷｸﾁ ﾅｵｷ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース）		530-5861	n.kikuchi@nittai.ac.jp
	指導	城所　哲宏	ｷﾄﾞｺﾛ ﾃﾂﾋﾛ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1426		kidokoro@nittai.ac.jp
	指導	木村　直人	ｷﾑﾗ ﾅｵﾄ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0970	507-7862	kimura@nittai.ac.jp
	(補助)	小泉　和史	ｺｲｽﾞﾐ ｶｽﾞｼ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）		479-6986	koizumi-k@nittai.ac.jp
	指導	鴻崎　香里奈	ｺｳｻﾞｷ ｶﾘﾅ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		507-7820	kouzaki@nittai.ac.jp
	(補助)	河野　徳良	ｺｳﾉ ﾄｸﾖｼ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース）		963-7958	t_kono@nittai.ac.jp

	教員資格	氏名	フリガナ	所属学位プログラム	東京・世田谷 キャンパス 電話番号	横浜・健志台 キャンパス 電話番号	メールアドレス
	（補助）	小林　史明	ｺﾊﾞﾔｼ ﾌﾐｱｷ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム		963-7924	kobayashi@nittai.ac.jp
	指導	小林　正利	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻﾄｼ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1251		m-kobayashi@nittai.ac.jp
	指導	近藤　智靖	ｺﾝﾄﾞｳ ﾄﾓﾔｽ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-1337		kondohtomoyasu@nittai.ac.jp
さ	指導	齋藤　一雄	ｻｲﾄｳ ｶｽﾞｵ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-1246		ksaito@nittai.ac.jp
	指導	齊藤　隆志	ｻｲﾄｳ ﾀｶｼ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-7385	tsaito@nittai.ac.jp
	指導	齋藤　義信	ｻｲﾄｳ ﾖｼﾉﾌﾞ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		479-6516	ysaito@nittai.ac.jp
	指導	佐野　昌行	ｻﾉ ﾏｻﾕｷ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース） 体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-7596	msano@nittai.ac.jp
	指導	佐良土　茂樹	ｻﾛｳﾄﾞ ｼｹﾞｷ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0943		sarodo@nittai.ac.jp
	指導	三瓶　舞紀子	ｻﾝﾍﾟｲ ﾏｷｺ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0916		sampei@nittai.ac.jp
	指導	鹿野　晶子	ｼｶﾉ ｱｷｺ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0950		shikano.a@nittai.ac.jp
	指導	白旗　和也	ｼﾗﾊﾀ ｶｽﾞﾔ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-1495		shirahata@nittai.ac.jp
	指導	杉田　正明	ｽｷﾞﾀ ﾏｻｱｷ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース） コーチング科学学位プログラム	5706-1148		m-sugita@nittai.ac.jp
	指導	鈴川　一宏	ｽｽﾞｶﾜ ｶｽﾞﾋﾛ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0972		suzukawa@nittai.ac.jp
	指導	須永　美歌子	ｽﾅｶﾞ ﾐｶｺ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース） 体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-1360		sunaga@nittai.ac.jp
	指導	関根　正美	ｾｷﾈ ﾏｻﾐ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0935		msekine@nittai.ac.jp
た	指導	髙井　秀明	ﾀｶｲ ﾋﾃﾞｱｷ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース） コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0863		takai@nittai.ac.jp
	（補助）	田中　良	ﾀﾅｶ ﾘｮｳ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0805		r-tanaka@nittai.ac.jp
	指導	田村　優樹	ﾀﾑﾗ ﾕｳｷ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0933		y-tamura@nittai.ac.jp
	（補助）	津田　博子	ﾂﾀﾞ ﾋﾛｺ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0934	963-7921	tsuda@nittai.ac.jp
	指導	津山　薫	ﾂﾔﾏ ｶｵﾙ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）		963-7939	tsuyamak@nittai.ac.jp
	指導	寺岡　英晋	ﾃﾗｵｶ ｴｲｼﾝ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-0975		eishin.teraoka@nittai.ac.jp

	教員資格	氏名	フリガナ	所属学位プログラム	東京・世田谷 キャンパス 電話番号	横浜・健志台 キャンパス 電話番号	メールアドレス
な	指導	中里　浩一	ﾅｶｻﾞﾄ ｺｳｲﾁ	体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）	5706-0821	507-1644	nakazato@nittai.ac.jp
	指導	南部　さおり	ﾅﾝﾌﾞ ｻｵﾘ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0945		nambu3@nittai.ac.jp
	指導	西山　哲成	ﾆｼﾔﾏ ﾃﾂﾅﾘ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース） コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム		963-7994	nishiyama@nittai.ac.jp
	（補助）	根本　研	ﾈﾓﾄ ｹﾝ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0928		nemoto@nittai.ac.jp
	指導	野井　真吾	ﾉｲ ｼﾝｺﾞ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース） 体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）	5706-1543		nois@nittai.ac.jp
は	（補助）	畠田　好章	ﾊﾀｹﾀﾞ ﾖｼｱｷ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-1036	963-7923	hatakeda@nittai.ac.jp
	指導	波多腰　克晃	ﾊﾀｺｼ ｶﾂｱｷ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-1473		hatakoshi@nittai.ac.jp
	指導	日比野　幹生	ﾋﾋﾞﾉ ﾐｷｵ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-8061	hibino@nittai.ac.jp
	指導	黄　仁官	ﾌｧﾝ ｲﾝｶﾝ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース）		963-7943	hwang@nittai.ac.jp
	（補助）	福井　元	ﾌｸｲ ｹﾞﾝ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-1274		fukui@nittai.ac.jp
ま	指導	三村　覚	ﾐﾑﾗ ｻﾄﾙ	体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース）		479-6960	mimura@nittai.ac.jp
	（補助）	三宅　良輔	ﾐﾔｹ ﾘｮｳｽｹ	体育科学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）		963-7997	miyake@nittai.ac.jp
	指導			体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）			
や	指導	山口　和之	ﾔﾏｸﾞﾁ ｶｽﾞﾕｷ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0930		kazuyamaguchi@nittai.ac.jp
	（補助）	山本　洋祐	ﾔﾏﾓﾄ ﾖｳｽｹ	コーチング科学学位プログラム コーチング実践学学位プログラム	5706-0954		yamamoto_judo@nittai.ac.jp
	指導	横田　匡俊	ﾖｺﾀ ﾏｻﾄｼ	体育科学学位プログラム（スポーツマネジメントコース） 体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）		479-7696	m-yokota@nittai.ac.jp
	指導	依田　充代	ﾖﾀﾞ ﾐﾂﾖ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-0944	479-8186	3.yoda@nittai.ac.jp
ら	指導	梁　凌詩Nancy	ﾘｮｳ ﾘｮｳｼﾅﾝｼｰ	体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）	5706-1034		leung@nittai.ac.jp

Web出願サイトによる登録だけでは出願完了となりません。必ず支払期限までに入学検定料を支払い、必要書類提出期限までに特定記録・速達郵便にて送付してください。必要書類が本学で受理された時点で出願完了となります。必要書類提出期限までに届かない必要書類はいかなる理由でも受け付けません。

Web出願の流れ

入学検定料支払い前であれば、正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

出願完了までの流れは、以下の通りです

STEP 1 事前準備 → STEP 2 出願サイトにアクセス → STEP 3 マイページの登録 → STEP 4 出願内容の登録 → STEP 5 入学検定料の支払い → STEP 6 必要書類の郵送 → STEP 7 出願完了 → 受験票の印刷

STEP 1 事前準備

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。（スマートフォン、タブレットは非推奨）
必要書類※は、準備に時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※必要書類…調査書、顔写真データ、各選抜毎の提出書類など

STEP 2 Web出願サイトにアクセス

Web出願サイト ▶ https://e-apply.jp/ds/nittai-net/

または、

大学ホームページ ▶ https://www.nittai.ac.jp/

からアクセス

STEP 3 マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。

①初めて登録する方は
マイページ登録 から
ログインしてください。

②メールアドレスの登録を行って
仮登録メールを送信 > を
クリックしてください。

③ユーザー登録画面から
ログインページへ を
クリックしてください。

④登録したメールアドレスに
初期パスワードと
本登録用URLが届きます。

※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。

⑤ログイン画面から
登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて
ログイン を
クリックしてください。

⑥初期パスワードの変更を
行ってください。

⑦表示された個人情報を入力して
次へ を
クリックしてください。

⑧個人情報を確認して
この内容で登録する を
クリックしてください。

⑨登録完了となります。
マイページへ を
クリックしてください。

⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、出願手続きを行う > ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので ログアウト ボタンをクリックしてください。

STEP 4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。

①マイページログイン後の
出願手続きを行う > ボタン
から登録画面へ

②大学・大学院区分の選択

③選抜区分選択と留意事項の
確認

④志望学部等の選択

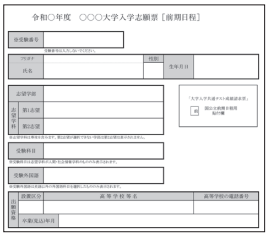
⑤顔写真のアップロード
写真選択へ > ボタンをクリックし
写真を選択します。

⑥個人情報（氏名・住所等）の
入力

⑦出願内容の確認
志願票（サンプル） ボタンを
クリックすると志願票が確認できます。

⑧申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。

⑨入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑩出願に必要な書類PDF
（イメージ）
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号メモ（13桁）													

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済番号メモ（11桁）										

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号メモ（11桁）											
確認番号メモ（6桁）											
収納機関番号（5桁）	5	8	0	2	1						

※収納機関番号は、ペイジーでお支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元（@e-apply.jp）からのメール受信を許可してください。　※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードまたはネットバンキングを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP 5

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】
VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード

Webで手続き完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

セブン-イレブン
デイリーヤマザキ
セイコーマート

●店頭端末を利用して支払い可能

Loppi
LAWSON
MINISTOP
マルチコピー機
FamilyMart

4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

Pay-easy

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

セブン-イレブン

店頭レジ
レジで「インターネット代金支払い」と伝える
「払込票番号（13桁）」を伝える
レジで検定料を現金で支払う※
領収書（レシート形式）を必ず受け取る

デイリーヤマザキ ヤマザキデイリーストアー

店頭レジ
レジで「オンライン決済」と伝える
「オンライン決済番号（11桁）」を伝える

ローソン ミニストップ

Loppi
「各種番号をお持ちの方」を選択
「お客様番号（11桁）」入力
「マルチペイメントサービス」を選択
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認
発券された申込券（受付票）をレジへ持参し、検定料を現金で支払う※
申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。

ファミリーマート

マルチコピー機
「代金支払い/チャージ（コンビニでお支払い Payment/Charge）」を選択
「お客様番号（11桁）」入力
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認

取扱明細書兼領収書を必ず受け取る

セイコーマート

店頭レジ
レジで「インターネット代金支払い」と伝える
「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
レジで検定料を現金で支払う※

4 銀行ATM

Pay-easy 利用ATM

ペイジー対応銀行ATM
「税金・料金払い込み」などを選択
収納機関番号「58021」を入力
「お客様番号（11桁）」入力
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認
「現金」「キャッシュカード」を選択し支払う※
ご利用明細書を必ず受け取る

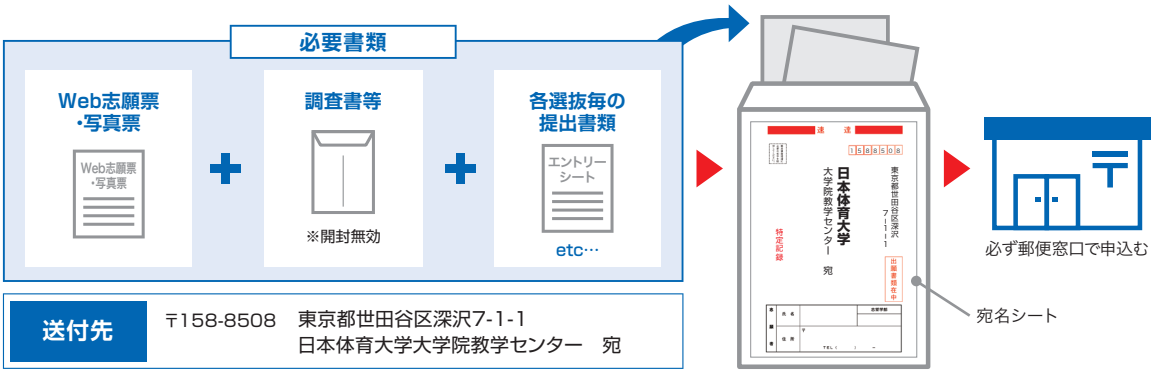
※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP 6

必要書類の郵送

Web出願登録・入学検定料支払いを行っただけでは出願は完了していませんので注意してください。

登録完了画面または確認メールに記載されている必要書類を、出願期間内に郵便局窓口から「速達・特定記録郵便」で郵送してください。（出願期間内消印有効）



送付先　〒158-8508　東京都世田谷区深沢7-1-1
日本体育大学大学院教学センター　宛

■出願書類

出願書類に関しては以下の表を確認してください。

必要書類	必要部数	内　容
①Web志願票・写真票	各1	入学検定料支払後、出力可能となります。 A4サイズで印刷し、切り取り線に沿って切り取ってください。
②各選抜毎の提出書類	1	詳細は、各選抜の提出書類を確認してください。

※出願受理した必要書類は一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の注意点

出願はWeb出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

Web出願は24時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日23時まで、入学検定料の支払いは出願締切日まで（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります）、必要書類の郵送は出願期間内消印有効です。

STEP 7

受験票の印刷

本学で出願を確認後、各入試毎に**出願期間受付終了後から試験3日前までに**一斉に受験票を配信します。インターネット出願システムよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください（**※郵送はいたしません**）。

※受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスへメールで通知します。

【印刷に関する注意事項】受験票は必ずA4用紙に**片面印刷**にしてください。

≪出願写真に関する注意事項≫

適切な写真例

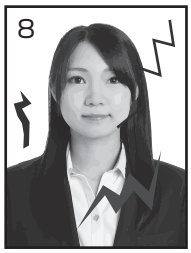
縦４cm

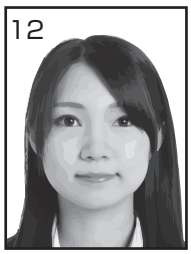
横 3cm

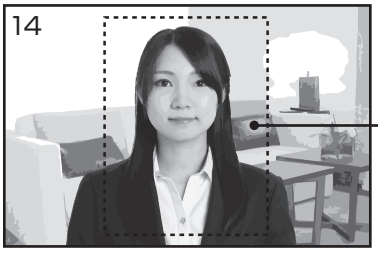
■写真の規定

- ●写真サイズは縦４cm× 横 3cm
- ●カラー写真、白黒写真いずれも可とします
- ●出願前３ヶ月以内に撮影したもの
- ●背景は無地（白・青・グレー）に限ります
- ●正面を向いた本人の顔がはっきり確認できるもの
- ●上半身で脱帽、頭部全体が写っている
- ●所定用紙（受験票・写真表・志願表）に貼付する写真は、全て同一の写真を貼付してください

下記項目に該当する場合は受付できませんのでご注意してください。







■ 受付できない写真例

1, 被写体が不鮮明（画像が荒い）

2, スナップ写真･SNS･ブログ等から流用した写真

3, 眼鏡のレンズに光が反射している

4, 頭上の余白部分が多い

5, サングラスやマスクをしている

6, 前髪や前髪の影で目を隠し、顔が確認できない

7, ヘアバンドや帽子で頭髪を覆っている

8, 変色していたり、キズや汚れがある

9, 証明写真を再撮影したもの

10, 被写体が正面を向いていない

11, 被写体が小さい

12, 被写体が大きすぎて写真からはみ出している

13, 写真サイズが横に長い

14, 背景に家具等が写っている

※該当する場合は必ず撮り直してください。